

平成 2 2 年度  
全国学力・学習状況調査報告書

～ 当別町における結果分析 ～

平成 2 2 年 1 2 月

当別町教育委員会

## は じ め に

本年度も小学校6年生と中学校3年生を対象に、文部科学省による全国学力・学習状況調査が平成21年4月20日に実施されました。全国調査としては、昨年度までの対象学年の全児童生徒を対象にした悉皆調査から、本年度は約30%の抽出調査に切り替えて実施され、当別町内の学校はいずれもその抽出校には当たりませんでした。しかし、北海道の独自予算のもと希望すれば全国調査を利用できることとされたことから、継続的な学習状況等の把握や改善に役立てていくため本町としてもこの調査に参加したところです。

調査の内容としては、これまでどおり教科に関する調査（国語と算数・数学）と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童・生徒対象と学校対象）がありましたが、このたび、文部科学省及び北海道教育委員会より送付された調査結果をもとに、当別町の児童・生徒の学力及び生活習慣等の実態分析を行いました。

学力に関しては、小学校において全道平均と比較しますと、ほぼ同程度であります。算数の知識・技能を活用する問題でやや下回ったものの、それ以外の国語、算数の基礎的・基本的な知識に関する問題、国語の知識・技能を活用する問題ではやや上回る結果となっています。また、中学校においては、全道平均と比較して国語・数学の基礎的・基本的な知識に関する問題、知識・技能を活用する問題とも、ほぼ同程度ではありますがいずれもやや上回る結果となり、国語の基礎的・基本的な知識に関する問題では全国平均をやや上回る結果となっています。

また、生活習慣、学習環境等については、規則正しい生活習慣、学校への目的意識、自尊意識、社会への興味関心などが子どもたちの心を安定させ、学習意欲を高めて学力の定着に関係している傾向がありますが、家庭学習の定着やテレビ視聴・ゲームの時間などにまだ課題が見受けられます。

本報告書では、こうした調査結果を検証・分析し、教科においては課題に対応した指導改善方策の一部をとりまとめ、生活習慣や学習環境等については、できるだけ学力との相関関係に注目しつつ改善の視点をまとめました。各学校においては、本調査結果を活用いただき、今後も学校ごとにそれぞれ継続的に成果と課題を分析し、児童・生徒の学力の向上や生活習慣等の改善を図るため、家庭・地域との連携を図り、より一層ご尽力いただくことを期待します。

当別町教育委員会

# 目 次

調査の実施概要	1
教科に関する調査結果	
1 小学校国語	2
(1) 小学校国語の概要	
(2) 今回の調査における特徴的な問題	
(3) 指導改善のポイント	
2 小学校算数	7
(1) 小学校算数の概要	
(2) 今回の調査における特徴的な問題	
(3) 指導改善のポイント	
3 中学校国語	12
(1) 中学校国語の概要	
(2) 今回の調査における特徴的な問題	
(3) 指導改善のポイント	
4 中学校数学	18
(1) 中学校数学の概要	
(2) 今回の調査における特徴的な問題	
(3) 指導改善のポイント	
生活習慣や学習環境等に関する調査結果	
1 小学校における児童質問紙調査の結果	23
(1) 基本的な生活習慣について	
(2) 家庭学習について	
(3) 学校生活について	
(4) 自尊意識・規範意識について	
(5) 家族とのコミュニケーションについて	
(6) 興味関心・意欲について	
(7) テレビゲーム・インターネット、携帯電話について	
2 中学校における生徒質問紙調査の結果	30
(1) 基本的な生活習慣について	
(2) 家庭学習について	
(3) 学校生活について	
(4) 自尊意識・規範意識について	
(5) 家族とのコミュニケーションについて	
(6) 興味関心・意欲について	
(7) テレビゲーム・インターネット、携帯電話について	
3 学校質問紙に関する調査結果	37
(1) 学習態度	
(2) 学習意欲に向けた取り組み	
(3) 学習支援	
(4) 国語科、算数・数学科の指導法	
(5) 地域の人材活用	
(6) 習熟度別少人数指導	

# I 調査の実施概要

- 1 調査の目的
- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図る。
  - イ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
  - ウ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

- 2 調査の対象学年
- 小学校第6学年
  - 中学校第3学年

## 3 調査の内容

### ①教科に関する調査

主として「知識」に関する問題【国語A, 算数・数学A】	主として「活用」に関する問題【国語B, 算数・数学B】
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容
・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

### ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

## 4 調査期日

平成22年4月20日(火)

## 5 当別町において調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	実施学校数(実施率)	児童生徒数
小学校	3	3(100.0%)	187
中学校	3	3(100.0%)	217
合計	6	6(100.0%)	404

## II 教科に関する調査結果

### 1 小学校国語

#### (1) 小学校国語の概要

##### 【小学校国語A】

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題が出題されている。

当別町の児童は、今回出題された学習内容に関しては、全国平均とほぼ同程度だが、やや下回っており、全道合算平均は、やや上回っている。

※「ほぼ同程度」は、全国平均・全道合算平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内

「全道合算」とは、本道の抽出調査と希望利用調査を合わせた結果

○領域の様子（各教科の領域は、抽出調査の全国平均・全道平均との比較）

##### 【話すこと・聞くこと】領域

全国平均とほぼ同程度だが、やや上回っており、全道平均よりは上回っている。

##### 【書くこと】領域

全国平均を下回っており、全道平均とはほぼ同程度だが、やや下回っている。

##### 【読むこと】領域

全国平均を下回っており、全道平均とはほぼ同程度だが、やや下回っている。

##### 【言語事項】領域

全国平均とほぼ同程度だが、やや下回っており、全道平均よりはやや上回っている。

##### 【小学校国語B】

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題が出題されている。

当別町の児童は、今回出題された学習内容の知識・技能を活用する力に関しては、全国平均を下回っており、全道合算平均とはほぼ同程度だが、やや上回っている。

※「ほぼ同程度」は、全国平均・全道合算平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内  
「全道合算」とは、本道の抽出調査と希望利用調査を合わせた結果

○領域の様子（各教科の領域は、抽出調査の全国平均・全道平均との比較）

**【話すこと・聞くこと】領域**

全国平均を下回っており、全道平均とはほぼ同程度だが、やや下回っている。

**【書くこと】領域**

全国平均とはほぼ同程度だが、やや下回っており、全道平均よりはやや上回っている。

**【読むこと】領域**

全国平均・全道平均を下回っている。

**【言語事項】領域**

全国平均・全道平均を下回っている。

◎ 成果と課題

◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点

( ) 内の記号はA＝国語A、B＝国語B

**話すこと・聞くこと**

- ◇ (A) 聞き手が理解しやすいように話の全体の構成を工夫することは、ほぼ理解している。
- ◇ (B) 伝えたいことと資料を関係付け資料を効果的に提示して話すことは、ほぼ理解している。
- ◆ (A) 目的や意図に応じ聞き手を引き付けるように話すことには、課題が見られさらに身に付けさせる必要がある。
- ◆ (B) 話の中心や意図をとらえ適切に質問することは、一部課題が見られる。

**書くこと**

- ◇ (A) 文の意味のつながりを理解し文の論理を考えて書くことは、ほぼ理解している。
- ◆ (A) 自分の考えが明確になるように文章構成の効果を考えて書くことは、一部課題が見られる。
- ◇ (B) 学級新聞に対する二つの意見の共通点を書くことは、ほぼ理解している。
- ◆ (B) 学級新聞に対する二つの意見の相違点を書くことは、一部課題が見られる。

**読むこと**

- ◆ (A) 説明的な文章の内容を的確に押さえながら読むことについては、課題が見られ知識・技能をさらに身に付けさせる必要がある。
- ◆ (B) 登場人物の行動や場面の様子に注意しながらあらすじを書くことについては、課題が見られ知識・技能を活用する力をさらに身に付けさせる必要がある。
- ◆ (B) 物語全体の構成の効果をとらえることについては、一部課題が見られる。

**言語事項**

- ◇ (A) 学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書くことは、ほぼ理解している。
- ◇ (A) 学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読むことは、ほぼ理解している。
- ◇ (A) 文脈に適した多義語の意味を理解することは、ほぼ理解している。
- ◇ (A) 語句の構成や語形の変化を理解することは、ほぼ理解している。

(2) 今回の調査における特徴的な問題

○成果のあった問題      ●課題のあった問題

○国語A設問7

「かたい」という言葉の意味で最もふさわしいものを1～4から選ぶ (国語A)

<設問>

クラスの団結が、かたい。

- |   |   |      |   |
|---|---|------|---|
| 1 | ダイヤモンドは、 <u>かたい</u> 。                               | <正答> | 2 |
| 2 | わたしの決心は、 <u>かたい</u> 。(全国の81.4を4.7、全道を5.4ポイント上回っている) |      |   |
| 3 | 頭が、 <u>かたい</u> 。                                    |      |   |
| 4 | 表情が、 <u>かたい</u> 。                                   |      |   |

多義語の理解を見る問題で、児童の語彙量のおよそが分かる。読書活動を充実させることが大切である。

○●国語A設問1二

「前の学年までに配当されている漢字を正しく書く」(国語A)

<設問>

—— 部のひらがなを、漢字でていねいに書く

- |   |                                  |      |    |
|---|----------------------------------|------|----|
| ① | <u>ひさ</u> しぶりに おじさんに会う。          | <正答> | 久  |
|   | (全国より4.2ポイント低いが全道よりは0.6高い)       |      |    |
| ② | <u>ぎじゅつ</u> が進歩する。               | <正答> | 技術 |
|   | (全国より9.8ポイント、全道より16.4ポイント上回っている) |      |    |

漢字力を見る問題で、この力は国語だけでなく算数や理科・社会など、あらゆる学習の基礎になっていく。したがって、習った漢字はあらゆる場面で使用させる指導が大切である。

### (3) 指導改善のポイント

#### 話すこと・聞くこと

○自分の考えを明確に話したり、情報を的確に聞き取ったりする指導の充実

- ・自分の考えを明確に話す力を身に付けるために、話の内容だけではなく、聞き手にわかりやすく伝えるための話し方についても意識させたり、伝えたいテーマに即した話の構成や展開を考えさせたりする必要がある。
- ・情報を的確に聞き取る力を身に付けるために、話し手の発言に対して質問や確認をさせたり新たな提案をさせたりするなど、具体的な言語活動を通して指導することが大切である。

#### 書くこと

○書いた文章を推敲する態度や方法を身に付ける指導の工夫

- ・読みやすく分かりやすい文章を書く力を身に付けるために、書いた文章を読み返す機会を学習に位置づけて、推敲することが習慣になるよう指導する必要がある。
- ・その際、単に文章を修正するだけではなく、なぜ修正するのかを意識させるために、例えばペアやグループで文章を検討する場面を設定することが大切である。

○相手に応じた表現を工夫して書く指導の工夫

- ・伝えるべき内容を相手や目的に応じて簡潔に分かりやすく書く力を付けるために、様々な相手を想定して、それにふさわしい表現で行事の案内などの実用的な文章を作成する学習を取り入れることが大切である。

○着目した部分を明確にした上で、自分の考えを具体的に書く指導の工夫

- ・書かれている内容について自分の考えを具体的に書く力を身に付けるために、どの部分に興味や関心を持ったのかを明確に示した上で、なぜそこに着目したのか、どうしてそのように考えたのかなどを丁寧に書くよう指導する必要がある。

#### 読むこと

○論理の展開の仕方をとらえて内容を理解する指導の工夫

- ・文章の内容を正確に理解するために、論理の展開の仕方をもとにしながら読むよう指導する必要がある。
- ・その際、接続詞や指示語などに注意しながら、書かれている内容について整理して読み進める学習活動が大切である。

○表現の仕方をとらえる指導の工夫



- ・様々な種類の文章を読んで内容を的確にとらえるために、書き手が文章を書こうとした目的と、それに応じた表現の仕方について考えさせることが大切である。

#### 言語事項

○言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにする指導の工夫

- ・言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、辞書等を使って、なじみの薄い語句や使用頻度の低いと思われる漢字などを積極的に調べる機会を意図的に設ける必要がある。
- ・その上で、調べたことを具体的な言語活動に生かす際に、言葉の使い分けなどについて意識させ、語感を磨くことがとが重要である。

## 2 小学校算数

### (1) 小学校算数の概要

#### 【小学校算数 A】

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題が出題されている。

当別町の児童は、今回出題された学習内容に関しては、全国平均を下回っており、全道合算平均とはほぼ同程度だが、やや上回っている。

「ほぼ同程度」は、全国平均・全道合算平均正答率と比較して $\pm 3$ ポイントの範囲内

「全道合算」とは、本道の抽出調査と希望利用調査を合わせた結果

領域の様子（各教科の領域は、抽出調査の全国平均・全道平均との比較）

#### 【数と計算】領域

全国平均を下回っており、全道平均とほぼ同程度である。

#### 【量と測定】領域

全国平均を下回っており、全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

#### 【図形】領域

全国平均を下回っており、全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

#### 【数量関係】領域

全国平均・全道平均を下回っている。

#### 【小学校算数 B】

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題が出題されている。

当別町の児童は、今回出題された学習内容の知識・技能を活用する力に関しては、全国平均を下回っており、全道合算平均とはほぼ同程度だが、やや下回っている。

「ほぼ同程度」は、全国平均・全道合算平均正答率と比較して $\pm 3$ ポイントの範囲内

「全道合算」とは、本道の抽出調査と希望利用調査を合わせた結果

領域の様子（各教科の領域は、抽出調査の全国平均・全道平均との比較）

【数と計算】領域

全国平均・全道平均を下回っている。

【量と測定】領域

全国平均とほぼ同程度だが、やや下回っており、全道平均よりやや上回っている。

【図形】領域

全国平均を下回っており、全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

【数量関係】領域

全国平均を下回っており、全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

成果と課題

...相当数の児童ができています点 ...課題のある点

( )内の記号はA=算数A、B=算数B

数と計算

- (A) 小数の減法の計算をすることができるは、ほぼ理解している。
- (A) 商が小数になる除法計算については、ほぼ理解している。
- (A) 数量を等分した一つ分を分数であらわすことは、ほぼ理解している。
- (B) 示された式を解釈し、鉛筆一本の定価が整数になるおつりの金額を判断することは課題が見られ、知識・技能を活用する力をさらに身に付けていく必要がある。

量と測定

- (A) 円を分割して作った長方形の縦の長さについては、ほぼ理解している。
- (A) 補角の大きさを求めることは、ほぼ理解している。
- (B) 図形を一部移動させても面積は変わらないことへの理解は、一部課題が見られる。

図形

- (A) 立方体を展開図から構成することは、ほぼ理解している。
- (A) 二等辺三角形の定義や性質の理解については、一部課題が見られる。
- (B) 示された平面図形を基に台形の大きさを考え平面上にかかれた立体図形と対応づけることについては、一部課題が見られる。
- (B) 示された図や考えを基に長さの大きさを判断し、その理由を記述することについては、一部課題が見られ知識・技能を活用する力をいっそう身に付けさせる必要がある。

数量関係

- (A) 割合の意味の理解については、一部課題が見られる。
- (B) 二次要素の中の数が見る事柄を2つの項目と単位に着目して読み取り、その内容を記述することは、ほぼ理解している。
- (B) 基準量と比較量の関係の図の判断については、一部課題が見られる。
- (B) 割合が一定の場面で比較量が最も大きくなる時の基準量を判断し、その理由を記述することについては、一部課題が見られ知識・技能を活用する力をいっそう身に付けさせる必要がある。

(2) 今回の調査における特徴的な問題  
成果のあった問題 課題のあった問題

算数A設問1(6)

「加法と乗法の混合した整数の計算」(算数A)

<設問>

$$50 + 150 \times 2$$

<正答> 350 (全国の65.9を18.3、全道を7.3下回っている。)

加法・乗法の混合計算問題で、基礎的な計算力が分かる。ドリル学習などを継続的に進めることが大切である。

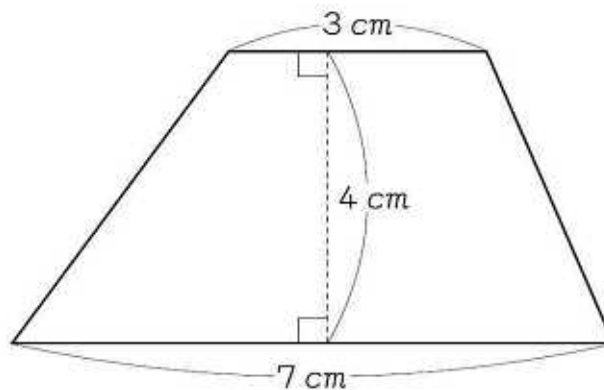
算数A設問5(2)

「台形の面積」(算数A)

<設問>

下の台形の面積を求める式と答えを書きましょう

(2) 下の台形の面積を求める式と答えを書きましょう。



<正答>

$$\cdot (\text{上底} + \text{下底}) \times \text{高さ} \div 2$$

$$\cdot (3 + 7) \times 4 \div 2 \quad 20 \text{ cm}^2$$

(全国の70.1を10.2下回り、全道を3.5上回っている。)

台形の面積を求める問題である。図形の公式を活用する基本的な問題で、図形の定義や性質を整理し、公式を的確に用いる指導が大切である。

### 算数B設問1(2)

計算順序を理解し、最初の式に( )を書き加えて正しい式に修正できる(算数B)

<設問>

(2) 次に、京子さんたちは、下の問題のおつりを求める式を考えています。

#### おつりを求める問題

50円の消しゴム1個と1本150円のえんぴつを2本買って、  
500円出しました。  
おつりは何円になりますか。



1個50円



1本150円

この問題を 出したお金 - 買ったものの代金

と考えて  $500 - 50 + 150 \times 2$  と式を立てましたが、おつりが150円になりません。おつり150円が正しく求められるように式に( )を書きましょう。

<正答>

$500 - 50 + 150 \times 2$  の式に

$500 - (50 + 150 \times 2)$  と( )をつける

(全国平均正答数 42.2 を 14.4、全道を 6.7 ポイント下回っている。)

計算順序のきまりの理解を見る問題である。四則計算の問題に継続的・計画的に取り組む機会などを設けることが大切である。

### (3) 指導改善のポイント

#### 数と計算

場面から数量の関係をとらえ、除法を用いて式で表現する活動の充実

- ・商が1より小さくなる等分除「(整数)÷(整数)」の場面では、何が非除数で、何が除数かをとらえて立式できるようにすることが大切である。示された数量を図に表す活動を取り入れ、数量の関係をとらえられるようにすることが大切である。

つくった問題を評価して、条件に合うように問題を修正する活動の充実

- ・問題をつくり、実際にその問題を解いてみるなどして、問題をつくる活動の充実を図ることが大切である。現実の場面に即して数量の大きさが適切かどうかを吟味するなどして、条件に合うように問題を修正できるようにすることが大切である。

#### 量と測定

他者が記述した説明を理解し、根拠を明らかにして自分の考えを説明する活動の充実

- ・他者が記述した説明から、説明に用いられている考えや説明の仕方を理解できるようにすることが大切である。また、自分の考えを記述して説明する際に、必要な事柄をもれなく含み、的確な言葉を用いて説明できるようにすることが大切である。

求積対象の図形とそれを変形してできた図形を対応させて考える活動の充実

- ・円の面積の公式を学習する際に、円を等分して並べ替えた図形を平行四辺形や長方形とみなしたり、長方形のたてと横の長さが元の円のどの部分に当たるかなどを考えたりして、円の面積の公式の意味を実感的に理解できるようにすることが大切である。

#### 図形

複数の条件を基に筋道を立てて図形の大きさを考え、算数の用語を用いて表現する活動の充実

- ・示された図からわかる事柄を整理するなどの活動を取り入れ、考えの進め方に着目できるようにすることが大切である。また、図形を表現し伝え合う活動を取り入れ、算数の用語を的確に用いることができるようにすることが大切である。

身の回りの事象を観察して図形を見出し、図形の定義や性質を根拠に説明する活動の充実

- ・身の回りから平面図形や立体図形を見出し、その図形とみなすことが出来る理由を図形の定義や性質を根拠にして説明する活動を取り入れることが大切である。

#### 数量関係

計算の順序についてのきまりを基に、式を計算したり式を書いたりする活動の充実

- ・複数の式を1つの式(総合式)に表現しなおす場を設定したり、式の表現が誤っている例を基に、修正の仕方を考える活動を取り入れたりと、計算の順序についてのきまりを確実に理解できるようにすることが大切である。

二次元表と円グラフの関連を理解したり、割合の考えを用いて論理的に説明したりできるようにする指導の重視

- ・目的に応じて二次元表から情報を取り出し、円グラフをかく活動を取り入れるなどして、二次元表と円グラフを関係付けて考える場を設定することが大切である。また、割合に関する問題解決の場面で、(基準量)×(割合)=(比較量)などの考えを根拠にして、式や言葉で理由を説明できるようにすることが大切である。

### 3 中学校国語

#### (1) 中学校国語の概要

##### 【中学校国語 A】

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身についているかどうかをみる問題が出題されている。

当別町の生徒は、今回出題の学習内容に関しては、全国平均とほぼ同程度だが、やや上回っており、全道合算平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

「ほぼ同程度」は、全国平均・全道合算平均正答率と比較して $\pm 3$ ポイントの範囲内  
「全道合算」とは、本道の抽出調査と希望利用調査を合わせた結果

領域の様子（各教科の領域は、抽出の全国平均・全道平均との比較）

##### 【話すこと・聞くこと】領域

全国平均・全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

##### 【書くこと】領域

全国平均・全道平均を上回っている。

##### 【読むこと】領域

全国平均・全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

##### 【言語事項】領域

全国平均・全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

##### 【中学校国語 B】

基礎的・基本的な言語活動や言語活動に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題が出題されている。

国語B（活用）について、当別町の生徒は、今回出題された学習内容の知識・技能を活用する力に関しては、全国平均とほぼ同程度だが、やや下回っており、全道合算平均と同程度だが、やや上回っている。

「ほぼ同程度」は、全国平均・全道合算平均正答率と比較して $\pm 3$ ポイントの範囲内  
「全道合算」とは、本道の抽出調査と希望利用調査を合わせた結果

領域の様子（各教科の領域は、抽出調査の全国平均・全道平均との比較）

##### 【話すこと・聞くこと】領域

全国平均・全道平均を下回っている。

##### 【書くこと】領域

全国平均とほぼ同程度だが、やや下回っており、全道平均をやや上回っている。

##### 【読むこと】領域

全国平均とほぼ同程度だが、やや下回っており、全道平均をやや上回っている。

## 成果と課題

...相当数の生徒ができている点 ...課題のある点

( )内の記号はA = 国語A , B = 国語B

### 話すこと・聞くこと

- ( B ) 資料の提示の仕方を工夫しその方法について具体的に説明することは、活用する力に課題が見られ、さらに身に付けさせる必要がある。
- ( A ) 表現の仕方に注意して説得力のある話しをすることは、ほぼ理解している。

### 書くこと

- ( A ) 書いた文章を読み返し読みやすく分かりやすい文章にすることは、ほぼ理解している。
- ( A ) 伝えるべき内容について整理して書くことは、ほぼ理解している。
- ( B ) 記録文に書かれている内容をもとに自分の考えを書くことは、ほぼ理解している。
- ( B ) 文章から必要な情報を集め資料に表れている工夫を自分の表現に役立てて書くことは、一部課題が見える。

### 読むこと

- ( A ) 現代語訳を参考にして古文の内容をとらえることは、ほぼ理解している。
- ( A ) 述べている内容とその根拠との関係について考えることは、ほぼ理解している。
- ( A ) 文章の特徴をとらえることは、ほぼ理解している。
- ( A ) 表現の仕方に注意しその効果を考えることは、ほぼ理解している。
- ( B ) 書かれている情報を的確に関係付けて読むことについては一部課題が見られ、活用する力をいっそう身に付けさせる必要がある。
- ( B ) 記事文における表現の仕方をとらえることは、ほぼ理解している。
- ( B ) 資料の表現の仕方をとらえることは、ほぼ理解している。
- ( B ) 文脈の中の語句の意味を的確にとらえることは、ほぼ理解している。
- ( B ) 表現の仕方に注意して内容を理解することは、一部課題が見られる。

### 言語事項

- ( A ) 語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うことは、ほぼ理解している。
- ( A ) 文脈に即して漢字を正しく書くことは、ほぼ理解している。
- ( A ) 文脈に即して漢字の読みはほぼ理解している。
- ( A ) 単語の類別や働きを理解し同じ意味に書き換えることは、ほぼ理解している。
- ( A ) 漢字の成り立ちについての理解は、ほぼ理解している。
- ( A ) 辞書を活用して、ことわざの意味を理解することは、ほぼ理解している。



(2) 今回の調査における特徴的な問題

成果のあった問題

課題のあった問題

国語A設問103

「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」(国語A)

<設問>

次のアからオの文で( )の中の1～4のうちどれが最も適切ですか

ア 物質が変化していく(1家庭 2仮定 3過程 4課程)を調べる。

<正答> 3 (全国平均正答数84.2を4.7、全道を3.7ポイント上回っている。)

イ 会議で決を(1執る 2撮る 3捕る 4採る)

<正答> 4 (全国平均正答数43.2を6.8、全道を4.2ポイント下回っている。)

ウ わたしが健康になったのは、(1ひとえに 2ほのかに 3いちずに 4むやみに)母のおかげです。

<正答> 1 (全国平均正答数63.5を1.5、全道を0.5ポイント上回っている。)

エ 参観日には父が学校へ来ると(1申して 2おっしゃって 3話されて 4申されて)おりました。

<正答> 1 (全国平均正答数52.8を6.2、全道を7.0ポイント上回っている。)

オ 兄は困っている人を見るとほうっておけない(1品格 2資質 3性分 4器量)だ。

<正答> 3 (全国平均正答数58.8を2.3、全道を4.7ポイント下回っている。)

語句の意味を理解し文脈の中で適切に使う問題で、生徒の語彙力のおよその程度が分かる。したがって、読書活動の充実が大切である。

国語A設問1(1)

前の学年までに配当されている漢字を正しく書く(国語A)

<設問>

先生にそうだんする。

<正答> 相談

この問題は3年前の小学6年生の時にも出題された問題で、この3年間の成長を見ることができる。中学校3年間で全国との差が縮まっている。

・当別町 48.3% 全道 49.4% 全国 58.0%(平成19年の小6時、全国差 -9.7)

・当別町 72.8% 全道 73.5% 全国 76.0%(平成22年の中3時、全国差 3.2)

国語B設問3三

文章の内容や表現をとらえ自分の考えを説明する(国語B)

<設問>

- ① 皮を脱いで、肉を脱いで骨だけで涼みたいものだとい  
キリスのシドニー・スミスとかいう人が苦しがつたとい  
う話がある
- ② 淡灰色の斑入りの毛衣だけはちよつと洗い張りでもす  
るか、もしくは当分のうち質にでも入れたいような気が  
する
- ③ なまで食つてしかるべきものをわざわざ煮てみたり、  
焼いてみたり、酢に漬けてみたり、味噌をつけてみたり  
好んでよけいな手数をかけてお互いに恐悦している
- ④ なにもあんなに雑多なものを皮膚の上へ載せて暮らさ  
なくてもいいことだ

【注目した表現】

三 山田さんと中川さんは、この文章で面白いと感じた点について話し合っています。次は、二人が「注目した表現」と「話し合いの一部」です。「話し合いの一部」で山田さんは、「③と④には、共通した面白さがあるよね。」と発言しています。あなたは、③と④には、どのような共通した面白さがあると考えますか。あなたの考えを、「注目した表現」③と「注目した表現」④には、「」に続けて、三十字以上、五十文字以内で書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【話し合いの一部】

- 山田 ①は、猫なのに物知りで人間でもあまり知らないよ  
うなことを知っているところ  
が面白い。
- 中川 ②は、できるはずのない  
ことを、その気になればで  
きるかのように語っている  
ところが面白いと思う。
- 山田 ③と④には、共通した面白  
さがあるよね。



<正答例>

- ・猫が人間の暮らしぶりをあれこれ取り上げて偉そうに批判しているという点で共通した面白さがある。(46字)
- ・猫が人間を偉そうに批判しているという面白さがある点で共通している。(33字)

(全国平均正答数 62.0 を 13.6、全道を 10.0 ポイント下回っている。)

文章内容や表現をとらえ、条件を満たした文章を書く問題である。時数や内容など複数の条件を設定し、その条件を満たす文章を書く機会の工夫が大切である。

### (3) 指導改善のポイント

#### 話すこと・聞くこと

話の中心や話し手の意図をとらえながら聞き、適切に質問する指導の充実

- ・話の中心や話し手の意図をとらえながら聞き、適切に質問するには、話し手を尊重して主体的に聞こうとする態度を高めるとともに、話し手と聞き手の両者にとって大事なことを押さえ、話し手の意図や話の内容に合わせて質問を工夫できるようにすることが重要である。
- ・そのためには、話し手の意図や話の中心を的確にとらえ、自分の意見と比べるなどした上で、様々な観点にあわせながら、聞きたいことを明確にして質問することができるように指導することが大切である。

#### 書くこと

文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書く指導の充実

- ・相手に伝えたいことを的確に表すには、文と文のつながりを理解できるようにすることが重要である。
- ・そのためには、『書くこと』の記述や推敲の段階などにおいて、文と文との接続関係に着目し、必要に応じて複数の文を一文に書き換えるように指導することが大切である。
- ・さらに、一文が長くなり、意味が伝わりにくい重文や複文については一文一文に分けて簡潔に書くように指導することも大切である。

#### 読むこと

文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読む指導の充実

- ・文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読むには、それぞれの人物の行動や会話、情景などについての叙述に着目し、人物相互の関係をとらえることができるようにすることが重要である。
- ・そのためには、家族や同級生のように物語を設定する上での実体的な関係や、仲間や好敵手のように物語が進むに連れて明らかになる構造的な関係を整理し、物語の展開に即して人物像や人物相互の関係、役割を押さえながら読むことができるように指導することが大切である。

目的や意図に応じて、必要な情報を収集し、効果的な読み方を工夫する指導の充実

- ・目的や意図に応じて、必要な情報を収集し、選択するには、複数の情報を比べて読むなど、効果的な読み方を工夫できるようにすることが重要である。
- ・そのためには、複数の情報に含まれる共通点や相違点を整理して検討するように指導することが大切である。
- ・その際、複数の情報について観点を明確にして分類するとともに、情報の内容が持つ特徴や情報の送り手が強調している事柄などをとらえることができるようにすることが大切である。
- ・また、示された情報の内容だけでは分からないことや分かりにくいことなどについても検討することが大切である。

#### 言語事項

相手や場面、状況に応じて共通語や方言を使い分ける指導の充実

- ・相手や場面、状況に応じて共通語や方言を使い分けるには、それぞれの特質を理解できるようにすることが重要である。
- ・そのためには、様々な文脈の中で使われている共通語と方言を取り出して、比較・対照しながら整理するなどの具体的な活動を通して、それぞれの特質を理解できるように指導することが大切である。
- ・特に、共通語の指導については、学校行事や校内放送などの改まった場面で実際に話すことを通じて、その特質や必要性についての理解が深まるようにすることが重要である。

## 4 中学校数学

### (1) 中学校数学の概要

#### 【中学校数学A】

数量や図形などについての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題が出題されている。

数学A（知識）について、当別町の生徒は、今回出題された学習内容に関しては、全国平均とほぼ同程度だがやや下回っており、全道合算平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

「ほぼ同程度」は、全国平均・全道合算平均正答率と比較して $\pm 3$ ポイントの範囲内  
「全道合算」とは、本道の抽出調査と希望利用調査を合わせた結果

領域の様子（各教科の領域は、抽出調査の全国平均・全道平均との比較）

#### 【数と式】領域

全国平均とほぼ同程度だが、やや下回っており、全道平均をやや上回っている。

#### 【図形】領域

全国平均を下回っており、全道平均とはほぼ同程度だが、やや下回っている。

#### 【数量関係】領域

全国平均とほぼ同程度だが、やや下回っており、全道平均と同じである。

#### 【中学校数学B】

数量や図形などについての基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題が出題されている。

数学B（活用）について、当別町の生徒は、今回出題された学習内容の知識・技能を活用する力に関しては、全国平均を下回っており、全道合算平均とほぼ同程度だがやや上回っている

「ほぼ同程度」は、全国平均・全道合算平均正答率と比較して $\pm 3$ ポイントの範囲内  
「全道合算」とは、本道の抽出調査と希望利用調査を合わせた結果

領域の様子（各教科の領域は、抽出調査の全国平均・全道平均との比較）

#### 【数と式】領域

全国平均・全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

#### 【図形】領域

全国平均・全道平均を下回っている。

#### 【数量関係】領域

全国平均とほぼ同程度だが、やや下回っており、全道平均をやや上回っている。

## 成果と課題

...相当数の児童ができている点 ...課題のある点

( ) 内の記号は A = 数学 A、B = 数学 B

### 数と式

- (A) 分数の加法計算については、ほぼ理解している。
- (A) 正の数と負の数の大小関係は、ほぼ理解している。
- (A) 文字式の表し方は、ほぼ理解している。
- (A) 文字式に数を代入して値を求めることは、ほぼ理解している。
- (A) 数量関係や法則を文字式で表現することは、ほぼ理解している。
- (A) 分数を含む一元一次方程式を解くことは、ほぼ理解している。
- (A) 簡単な連立二元一次方程式を解くことは、ほぼ理解している。
- (A) 連立方程式を作って問題を解決することは、ほぼ理解している。
- (A) 等式を目的に応じて変化することは、一部課題が見られる。
- (B) 予想された事柄を振り返って考えることは、ほぼ理解している。
- (B) 発展的に考え、見出した事柄を説明することは、ほぼ理解している。

### 図形

- (A) 垂直の作図手順は、ほぼ理解している。
- (A) 直線と平面との垂直関係は、ほぼ理解している。
- (A) 三角形を平行移動させると三角柱が構成されることは、ほぼ理解している。
- (A) 多角形の内角の和の性質は、ほぼ理解している。
- (A) 命題の仮定と結論を区別し与えられた命題の仮定を指摘するは、ほぼ理解できる。
- (A) 証明を読み、用いられている直角三角形の合同条件は、ほぼ理解している。
- (A) 言葉で示された図形の性質や条件を記号で表すことは、ほぼ理解している。
- (A) 線対称の図形の対称軸については、一部課題が見られる。
- (A) 空間図形における長さの関係の読み取りには、一部課題が見られる。
- (A) 円柱の体積を求めることには、一部課題が見られる。
- (A) 三角形の外角と、それに隣り合わない2つの内角の和の関係には、一部課題が見られる。
- (A) 証明の意義についての理解には、一部課題が見られる。
- (B) 与えられた証明を読みその仕組みを考えるには、一部課題が見られる。
- (B) 事象を図形に着目して観察し特徴を的確にとらえることは、ほぼ理解している。
- (B) 事象を数学的に解釈し特徴を数学的に説明することは、ほぼ理解している。

### 数量関係

- (A) 比例関係をとらえXに対するYの値を求めることは、ほぼ理解している。
- (A) 比例のグラフからXに対するYの値を求めることは、ほぼ理解している。
- (A) 反比例の式とグラフの関係は、ほぼ理解している。
- (A) 一次関数のグラフから  $Y = aX + b$  の式は、ほぼ理解している。
- (A) 一次関数の関係を式で表すことは、ほぼ理解している。
- (A) 連立二元一次方程式の解が2直線の交点の座標であるは、ほぼ理解している。
- (A) 樹形図や表を利用して場合の数を求めることは、ほぼ理解している。
- (A) 確立の意味の理解は、ほぼ理解している。
- (A) 反比例の比例定数の意味については、一部課題が見られる。
- (A)  $Y = aX + b$  について変化の割合の理解には一部課題が見られる。
- (B) 問題解決の構想を立て数学的な表現で説明することは、ほぼ理解している。

- (B) 事象を数学的に説明することは、ほぼ理解している。
- (B) 数学的な結果を事象に即して解釈することは、ほぼ理解している。
- (B) 表やグラフから必要な情報を読み取り、数学的に解釈するは、ほぼ理解してる。
- (B) グラフに表れた数量の特徴を数学的に表現できるは、ほぼ理解している。

(2) 今回の調査における特徴的な問題

成果のあった問題

課題のあった問題

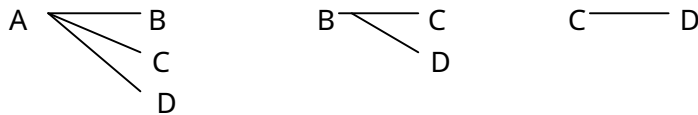
数学A設問14(1)

「樹形図や表などを利用して場合の数を求める」(数学A)

<設問>

A, B, C, Dの4チームがバレーボールの試合をします。どのチームも他のすべてのチームと1回ずつ試合をします。このときの全部の試合数を求めなさい。

<正答>  
6



(全国平均正答数 66.4 を 1.8、全道を 8.7 ポイント上回っている。)

場合の数を求める問題である。図や表を用いて順序よく整理するなどの活動を位置づけることが大切である。

数学A設問5(4)

「円柱の体積の求め方」(数学A)

<設問>

底面の円の半径が 10cm で、高さが 15cm の円柱があります。この円柱の体積を求める式と答えを書きなさい。ただし円周率を  $\pi$  とします。

<正答>  $10 \times 10 \times \pi \times 15$   
 $1500 \pi \text{ cm}^3$

(全国平均正答数 39.9 を 8.6、全道を 1.5 ポイント下回っている。)

円柱の体積を求める問題で、学習した公式を活用する数学的活動を意図的・継続的に位置づけることが大切である。

数学B設問1(2)

必要な情報を選択し数量関係を数学的に表現処理できる(数学B)

<設問>

## 目標は週23エクササイズ!

■エクササイズとは？

身体活動(運動・生活活動)の量を表す単位です。  
身体活動量は、次の式で求めることができます。

$$\text{身体活動量 (エクササイズ)} = \text{身体活動の強度} \times \text{身体活動の実施時間 (時間)}$$

■身体活動の強度とは？

身体活動の強さを示す数値で、安静時を1としたときの何倍に相当するかを表したものです。

運動の例 (レクリエーション程度の場合)	強度	生活活動の例
ゆっくり歩く	2	料理をする
バレーボール	3	犬の散歩
卓球、バドミントン	4	自転車に乗る
バスケットボール、軽いジョギング	6	家財道具を運ぶ
ランニング、水泳	8	階段を上がる

■身体活動量を求めてみよう!

例えば、上の表でバスケットボールは強度6の運動です。バスケットボールを1時間30分行った場合の身体活動量は、次のように求めることができます。

$$6 \times 1.5 \text{ (時間)} = 9 \text{ (エクササイズ)}$$

真由さんのお姉さんは「目標まであと9エクササイズなんだけど、バドミントンと軽いジョギングで合計2時間分の運動をして、ちょうど9エクササイズになるようにしたいな。」と言っています。

バドミントンの時間をx時間、軽いジョギングの時間をy時間として連立方程式をつくり、それぞれの運動の実施時間を求めなさい。

<正答>  $4x + 6y = 9$

$$x + y = 2$$

答え バドミントン 3/2

軽いジョギング 1/2

(全国平均正答数 38.6 を 3.1、全道を 0.5 ポイント下回っている)

複数の選択肢から条件にあうものを選び、必要な情報を適切に選択して数学を活用して解く問題である。実生活の場面での問題解決を工夫する機会を設定することが大切である。



### (3) 指導改善のポイント

#### 数と式

方程式の解の意味を理解する活動の重視

- ・方程式は変数（未知数）を含んだ相関関係についての条件を表した等式であり、その条件が満たす値が方程式の解であることへの理解を深める活動を一層重視する。  
事柄が成り立つことや成り立たないことを数学的に説明する活動の充実
- ・事柄が成り立つ理由を説明するために、結論を導くために必要な根拠が何かを明らかにして口述したり記述したりする活動や、事柄が成り立たないことを示すために、反例をあげる活動を充実させることが重要である。

#### 図形

空間図形の性質を見取り図、展開図、投影図などの表現を用いて考察する活動の重視

- ・空間図形の性質を考察する際に、見取り図、展開図、投影図などの多様な表現を用いる活動を一層重視するとともに、平面図における図表示の特徴の理解を深めることが大切である。  
事象を図形に着目して観察し、その特徴を数学的な表現を用いて説明する活動の充実
- ・日常的な事象を形や大きさ、位置関係に着目して観察することで、図形やその要素の関係を見出し、その事象の特徴を図形の性質として把握するとともに、把握した事柄を主部（前提や根拠）と述部（結論）を明確にして、口述したり記述したりする活動を充実させることが大切である。

#### 数量関係

具体的な事象における、2つの数量の関係をとらえる方法を理解し、変化や対応を調べる活動の重視

- ・数量の関係を把握するために、自ら具体的な数値を用いて調べたり表や式に表したりして、変化や対応の様子を調べ、数量の関係がどのような関数であるかを判断し、説明する活動を一層重視することが大切である。  
事象から数量の関係を見出し、見通しを持って問題解決に取り組む活動の充実
- ・日常的な事象における数量の関係が積であらわされた式について、3つの数量のうちの1つを一定と見ることによって残りの2つの数量の関係が比例や反比例になることをとらえることを通じて、積で表の数学的な意味の理解を深める活動を充実させることが大切である。
- ・数量の関係をとらえ、与えられた条件を目的に応じて整理したり解釈したりして、問題解決のために結果を予想したり構想を立てたりする活動を充実させることが大切である。  
日常的な事象の考察のためにグラフを活用し、その良さを実感する活動の充実
- ・複数の事象を比較する際に、事象とグラフを対応させ、グラフに表現することで判断に必要な情報が得やすくなるなど、問題を解決する上でグラフの良さを実感する活動を充実させることが大切である。

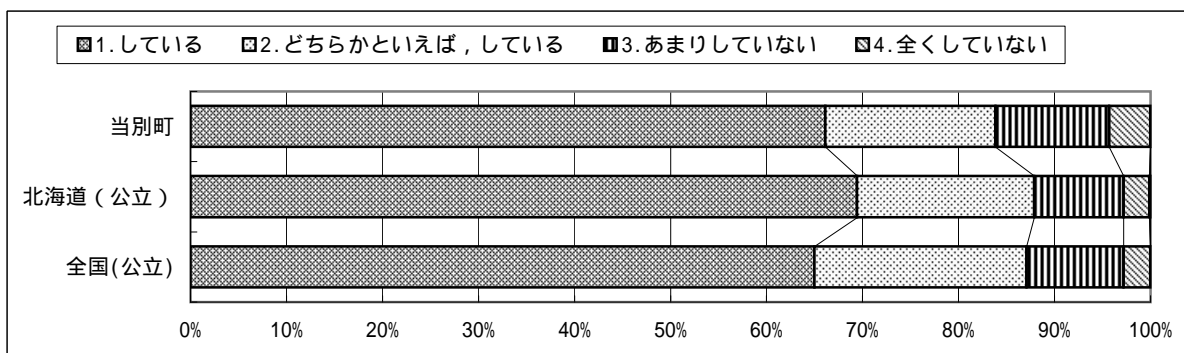
# 生活習慣や学習環境等に関する調査結果

## 1. 小学校における児童質問紙調査の結果

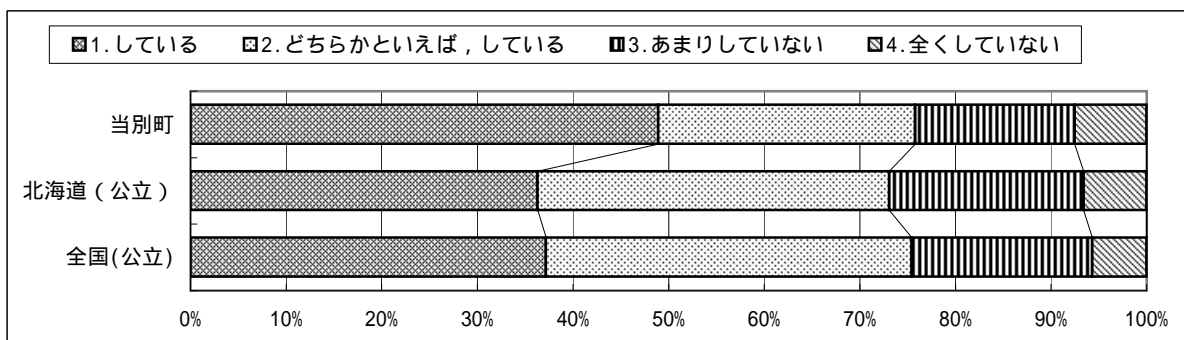
### (1) 基本的な生活習慣について

「学校に持っていくものを前日かその日の朝に確かめている」児童の割合は66.1%で、全国よりも1.1ポイント高く、全道よりも3.4ポイント低い。  
 「毎日同じくらいの時刻に起きる」割合は、60.2%で、全国よりも0.2ポイント低く、全道よりも2.8ポイント高い。  
 「同じくらいの時刻に寝る」割合は、48.9%で、全国よりも11.7ポイント高く、全道よりも12.6ポイント高い。

質問：学校に持っていくものを前日かその日の朝に確かめている



質問：毎日同じくらいの時刻に寝ている



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

学習道具を確認する児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。

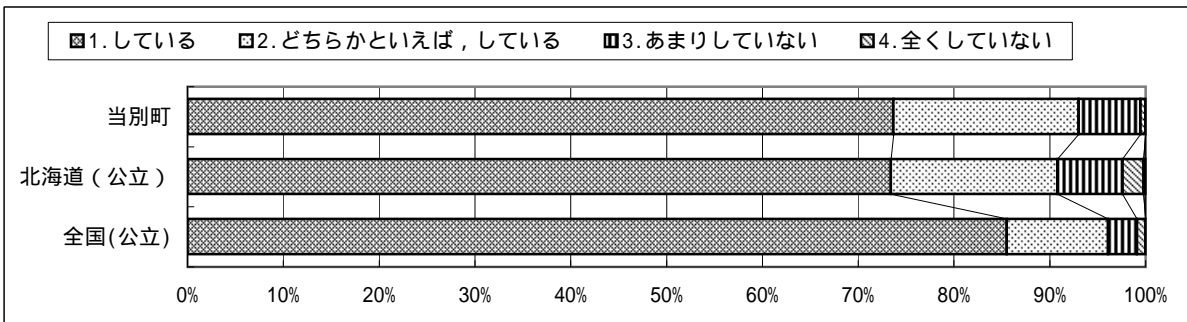
< 考 察 >

基本的な生活習慣に関しては、自分で学習用具を確認したり、同じくらいの時刻に起きるなど生活習慣が定着している児童の方が、正答率が高い傾向にある。  
 したがって「朝食を毎日食べている」割合は今年度の当別町児童は全国・全道とほぼ同程度であるが、学力をより高めていく上からも「早寝早起き朝ごはん運動」を徹底していく必要がある。

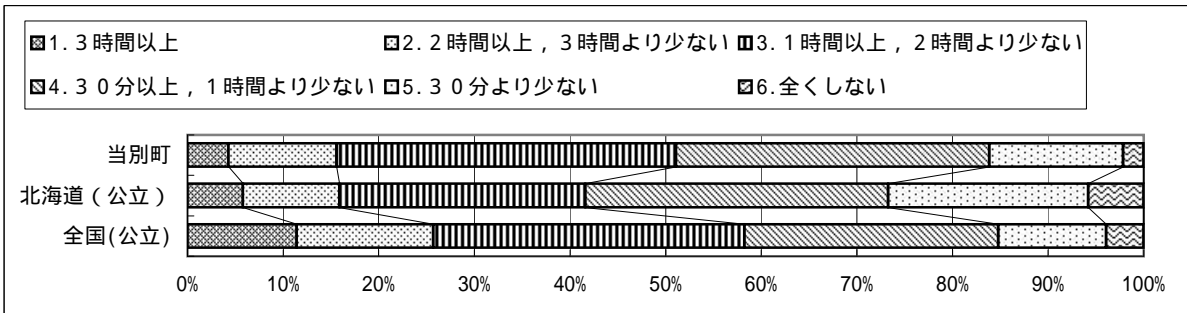
(2) 家庭学習について

「家庭で宿題をしている」当別町児童の割合は、73.3%で、全国より11.7ポイント低く、全道より0.3ポイント高い。  
 「学校の授業以外で普段一日に1時間以上勉強している」当別町児童の割合は51.1%で、全国より7.1ポイント低く、全道より9.5ポイント高い。  
 「家でテストで間違えた問題を後で勉強している」当別町児童の割合は28.5%で、全国より7.2ポイント、全道より4.2ポイント高い。

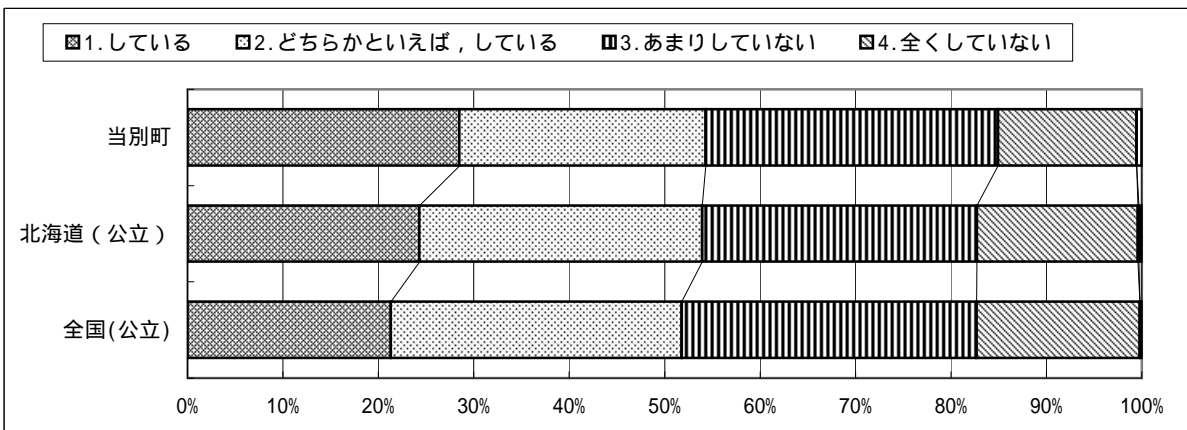
質問：家で宿題をしていますか



質問：家で1時間以上勉強をしている



質問：家で、テストの間違いを勉強し直す



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

家で宿題や家庭学習をしている児童や、テストの間違いを後で勉強し直す児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。

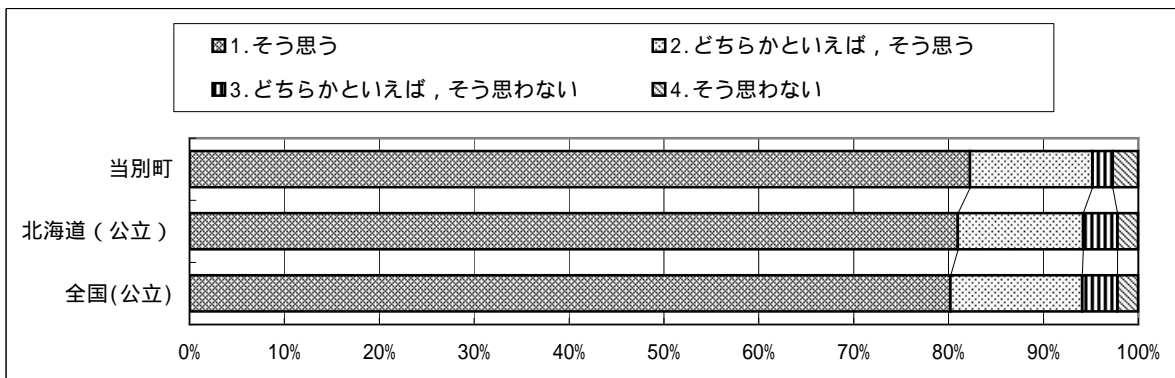
< 考 察 >

家庭学習習慣の定着は学力向上の大きな要因の一つである。そのためには宿題をしっかりと行うことや、テストの間違いを勉強し直す習慣を身に付けさせることが重要である。  
規則正しい就寝・起床時刻の定着やテレビを見る・ゲームをする時間の約束など、基本的な生活習慣の定着とあわせて、家庭と連携した取組が大切である。

( 3 ) 学校生活について

「学校で友達と会うのが楽しい」当別町児童の割合は86.6%で、全国より3.1ポイント、全道より5ポイント高い。  
「好きな授業がある」当別町児童の割合は82.3%で、全国・全道とほぼ同程度だが、やや上回っている。

質問：好きな授業がある



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

学校で友達と会うのが楽しみや好きな授業があるなど、学校生活が楽しい児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。

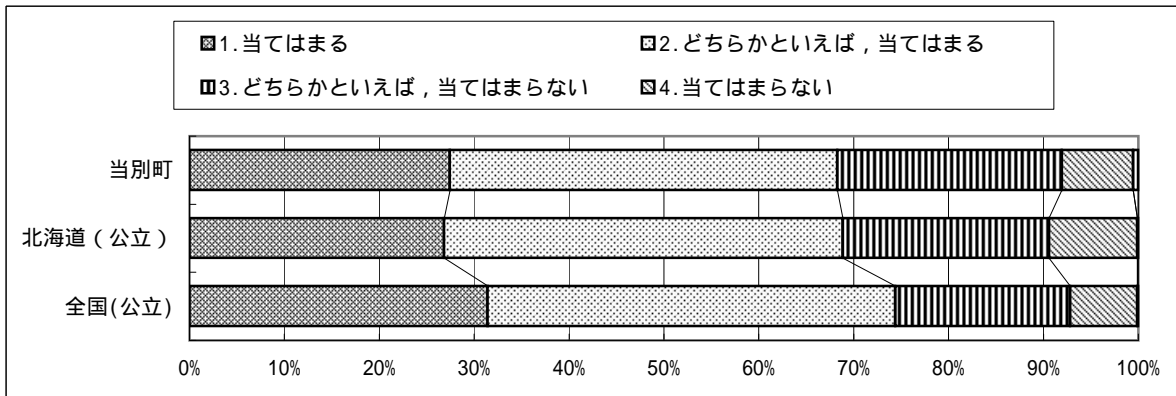
< 考 察 >

「好きこそものの上手なれ」の言葉のように、「楽しい学校・分かる授業」など内発的学習意欲を高めて、学習に積極的に向かう姿勢づくりが極めて大切である。

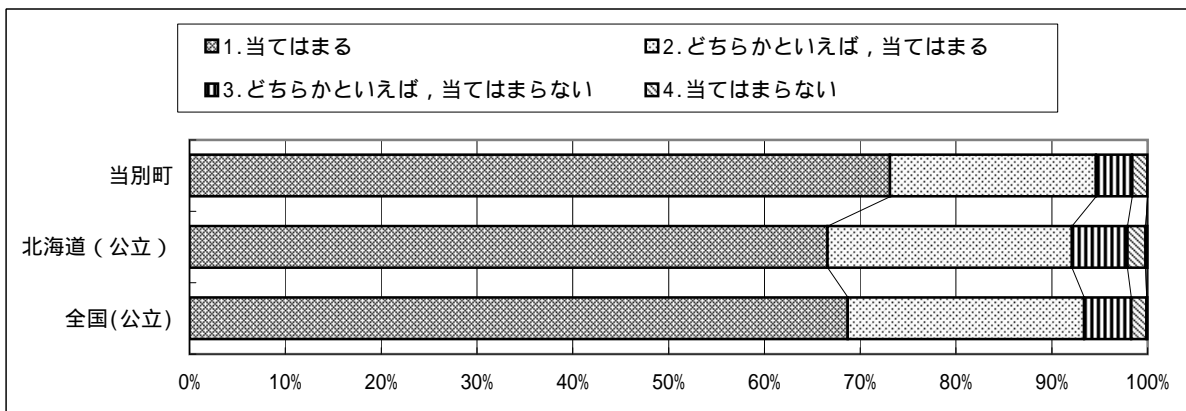
( 4 ) 自尊意識・規範意識について

「自分には良いところがある」と思う当別町児童の割合は、27.4%で、全国より4ポイント低く、全道より0.6ポイント高い。  
「いじめはどんな理由でも許されない」と思う当別町児童の割合は、86%で、全国より10.3ポイント、全道より9.8ポイント高い。  
「人の役に立つ人間になりたい」と思う当別町児童の割合は73.1%で、全国より4.4ポイント、全道より6.5ポイント高い。

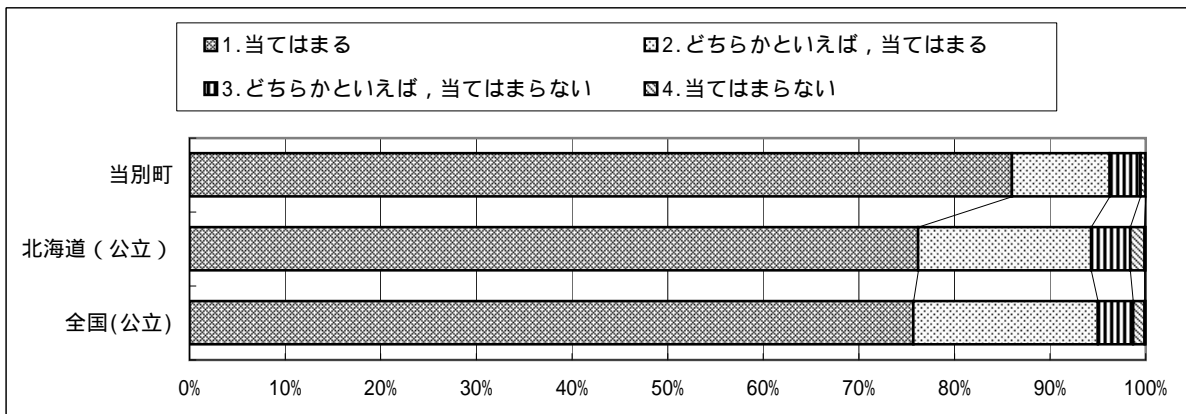
質問：自分には良いところがあると思いますか



質問：人の役に立つ人間になりたいと思いますか



質問：いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

「自分には良いところがある」と思っている児童の方が、正答率が高い傾向にある。

「人の役に立ちたい」と思っている児童の方が、正答率が高い傾向にある。

「将来の夢や目標を持っている」児童の方が、正答率が高い傾向にある。

「いじめはいけないこと」と思う児童の方が、正答率が高い傾向にある。

< 考 察 >

当別町6年児童は「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立ちたいと思っている」と考えている割合が、全国・全道よりも高く、「自尊心・人権尊重」の教育が着実に定着しているといえる。

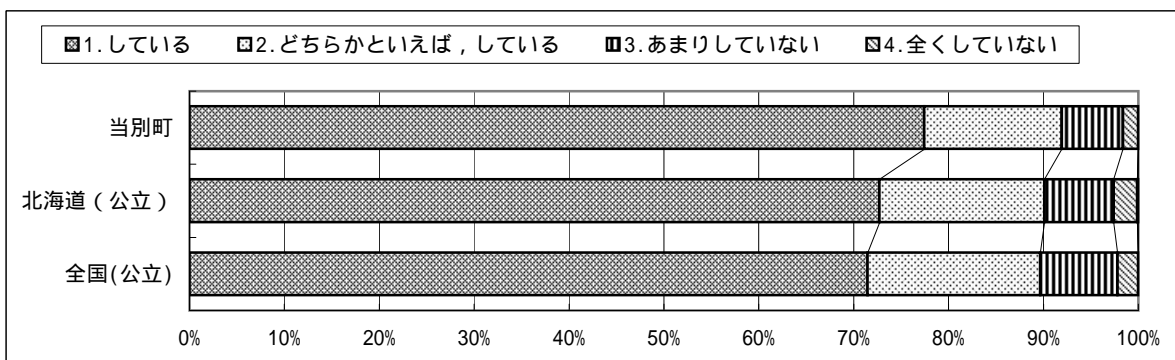
したがって、さらにキャリア教育・道徳教育・生徒指導などの充実を図っていくことが大切である。

(5) 家族とのコミュニケーションについて

「家の人と普段(月～金曜日)夕食を一緒に食べている」当別町児童の割合は77.4%で、全国より6ポイント、全道より4.7ポイント高い。

「家の手伝いをする」当別町児童の割合は41.9%で、全国より10ポイント、全道より11.2ポイント高い。

質問：家の人と夕食を一緒に食べている



< 考 察 >

家の人と夕食を一緒に食べている当別町児童の割合が、今年度は全国・全道と比較してかなり高い傾向にある。安定した家庭生活・家族との円滑なコミュニケーションは、児童にとって欠かせることができない「健全なる子育て」の原点である。

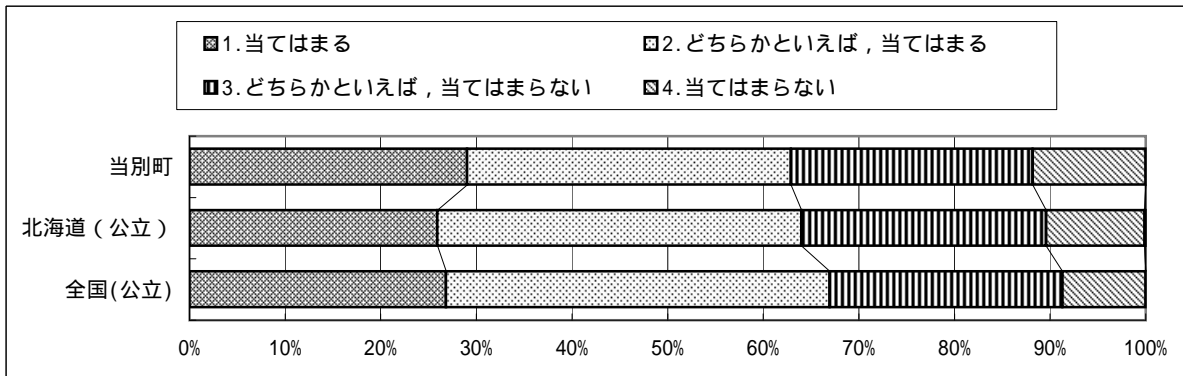
(6) 社会に対する興味関心・意欲について

「新聞・テレビなどのニュース」に関心がある当別町児童の割合は29%で、全国より2.2ポイント、全道より3.1ポイント高い。

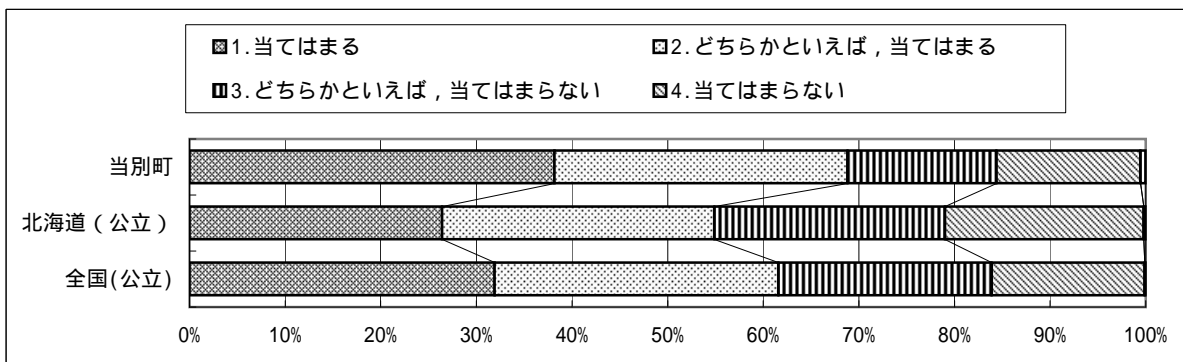
「今住んでいる地域の行事」に参加している当別町児童の割合は38.2%で、全国より6.3ポイント、全道より11.8ポイント高い。

「総合的な学習」が好きな当別町児童の割合は47.3%で、全国より9.5ポイント、全道より5.7ポイント高い。

質問：新聞やテレビのニュースに関心があります



質問：今住んでいる地域の行事に参加している



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

新聞やテレビのニュースに関心のある児童の方が正答率が高い傾向にある。  
 「総合的な学習の時間」の授業で、新しいことが発見できている児童の方が正答率が高い傾向にある。  
 今住んでいる地域への関心が高い児童の方が正答率が高い傾向にある。

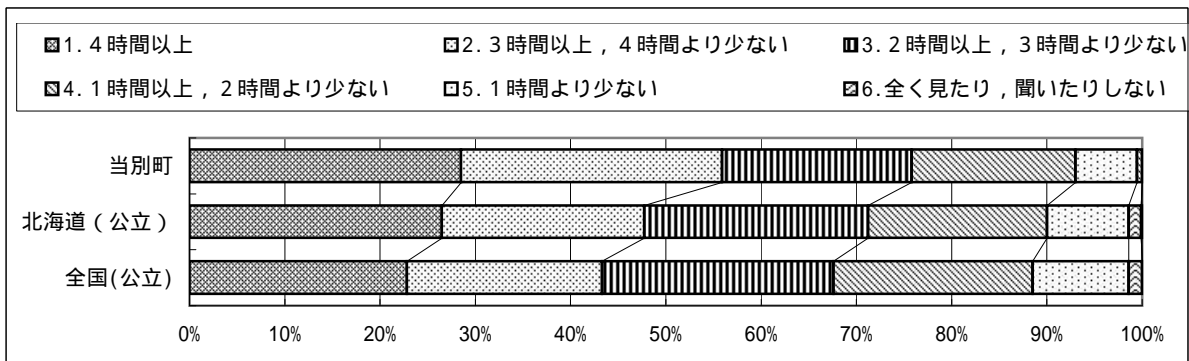
< 考 察 >

今住んでいる地域に対する「郷土愛」が当別町6年児童は、大変高い傾向にある。また「総合的な学習」すなわち「活用型・探求型学習」を好む子が多く、社会に対する興味関心を高めることと合わせて、「自ら課題を見つけ、自ら解決していく」力を身に付けさせることが大切である。

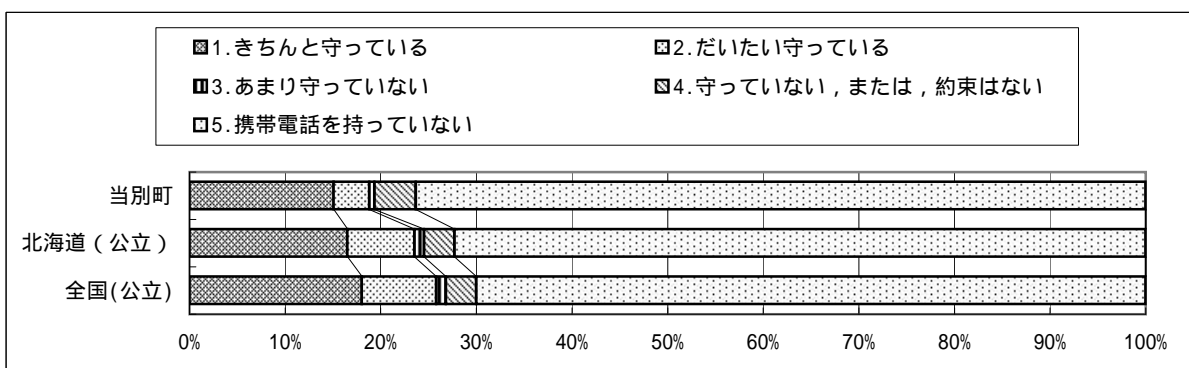
(6) テレビ・ゲーム・インターネット・携帯電話について

「一日あたり2時間以上、テレビ・ビデオ・DVDを見たり聞いたりする」当別町児童の割合は75.8%で、全国より8.2ポイント、全道より4.5ポイント高い。  
 「一日あたり1時間以上、テレビゲームをする」当別町児童の割合は54.9%で、全国より7ポイント高く、全道より3.2ポイント低い。  
 「携帯電話の使い方について」、家の人と約束したことを守っている当別町児童の割合は15.1%で、全国より3.1ポイント、全道より1.4ポイント低い。

質問：一日に、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする時間



質問：携帯電話の使い方について家の人と約束したことを守っている



< 考 察 >

「ゲームをする時間」や「携帯電話の使い方の約束を守っている」割合については、当別町6年児童は全国・全道よりも課題は多いが、全国・全道レベルに近づいている傾向にある。この「テレビやゲーム・携帯電話にかかわる時間」などと「家庭学習時間」とは表裏一体の関係にあって、「基本的な生活習慣の確立」が「自ら学ぶ子」につながり、「健全なる生活」の確立が「賢い子ども・強靱なる子ども」につながることを家庭に啓発・発信していく取組が大切である。

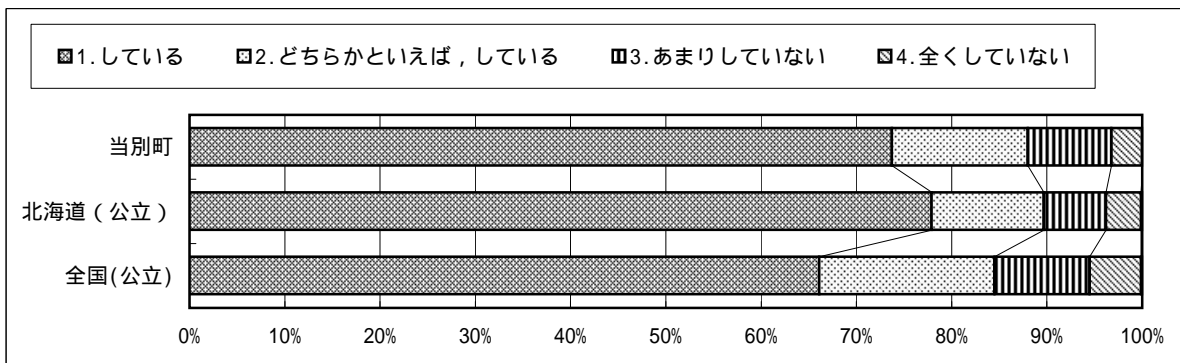


## 2, 中学校における生徒質問紙調査の結果

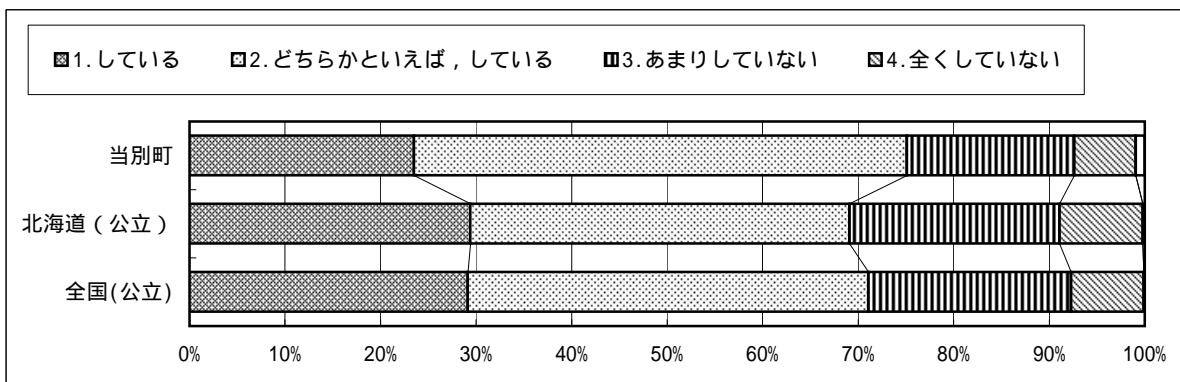
### (1) 基本的な生活習慣について

「学校に持って行くものを前日か、その日の朝に確かめている」当別町生徒の割合は73.7%で、全国より7.6ポイント高く、全道より4.2ポイント低い。  
 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」当別町生徒の割合は23.5%で、全国より5.6ポイント低く、全道より5.9ポイント低い。  
 「毎日同じくらいの時刻に起きている」当別町生徒の割合は53.5%で、全国より2.6ポイント、全道より3.8ポイント低い。

質問：学校に持って行くものを、前日かその日の朝に確かめている



質問：毎日、同じくらいの時刻に寝ている



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

事前に持ち物を確認する生徒の方が、正答率が高い傾向にある。  
 規則正しく決まった時刻に寝起きている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。

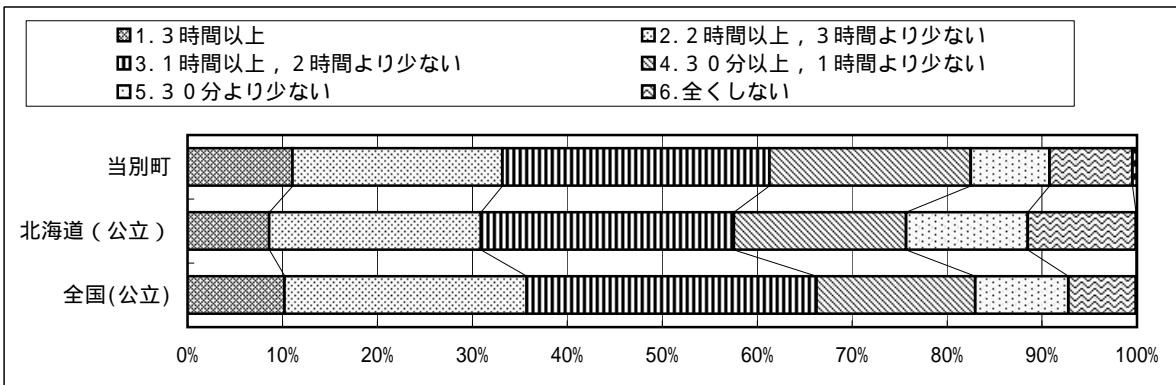
< 考 察 >

今年度当別町生徒の基本的な生活習慣には、全国・全道と比べて課題が見える。そのため、規則正しい生活の確立のために、学校と家庭の両者の取組が大切である。  
 基本的な生活習慣を身に付けさせ、学力向上を図っていくには「早寝・早起き・朝ごはん」運動を家庭と連携して進めていくことが重要である。

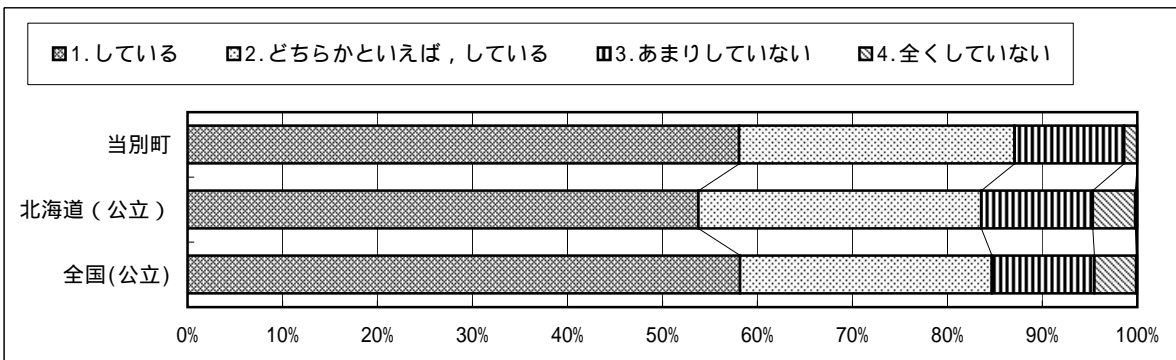
(2) 家庭学習について

「普段、家で1時間以上勉強している」当別町生徒の割合は61.3%で、全国より4.9ポイント低く、全道より3.8ポイント高い。  
 「家で学校の宿題をしている」当別町生徒の割合は58.1%で、全国より2.3ポイント低く、全道より4.3ポイント高い。  
 「テストで間違えた問題を後で勉強している」当別町生徒の割合は18.9%で、全国より6.1ポイント、全道より2.8ポイント高い。

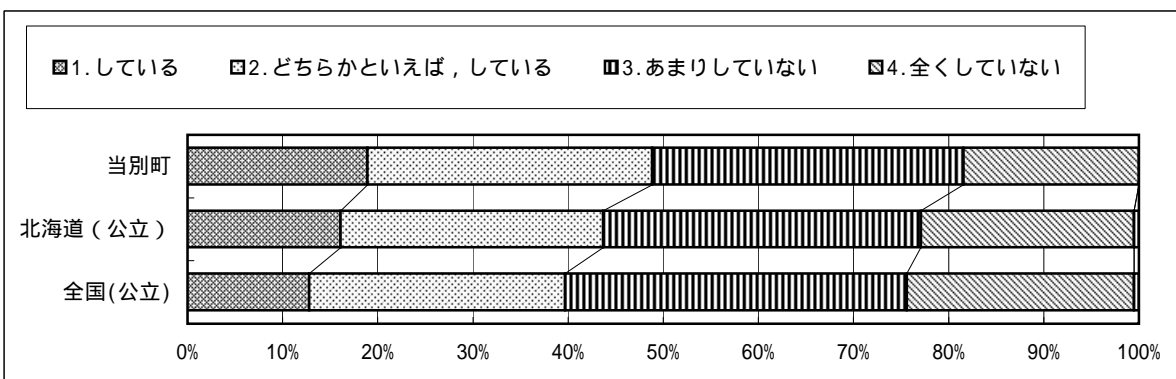
質問：普段、家で1時間以上勉強している



質問：家で、学校の宿題をしている



質問：家で、テストで間違えた問題を勉強している



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

自ら学習計画を立てる生徒の方が、正答率が高い傾向にある。  
家で学校の宿題をしている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。  
学校の授業の予習・復習をしている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。

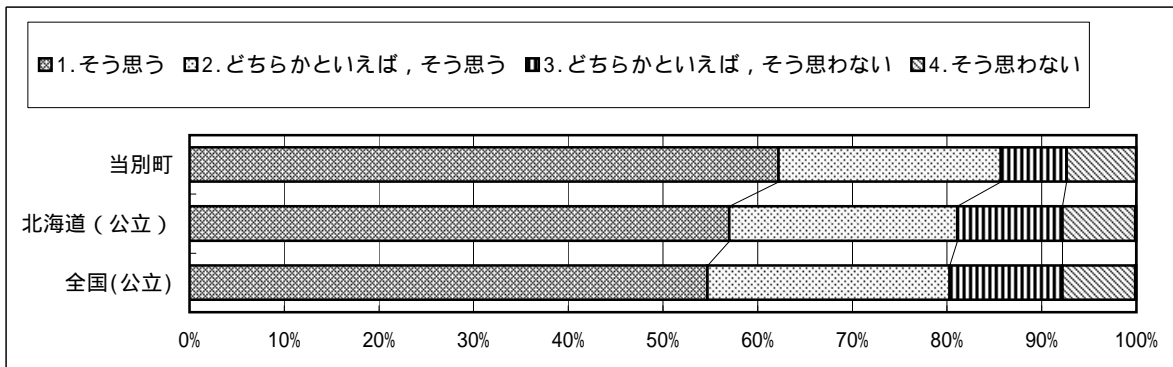
< 考 察 >

今年度の当別町生徒は、「テストで間違えた問題を勉強し直す」割合は、全国・全道より高い。「学ぶ習慣を身に付ける」ことは、学力向上には欠かすことができない要素であるので、更なる取組が大切である。

### ( 3 ) 学校生活について

「学校で友達に会うのは楽しいと思う」当別町生徒の割合は75.6%で、全国より1.1ポイント低く、全道より1.1ポイント高い。  
「学校で好きな授業がある」当別町生徒の割合は62.2%で、全国より7.5ポイント、全道より5.2ポイント高い。

質問：学校で好きな授業がある



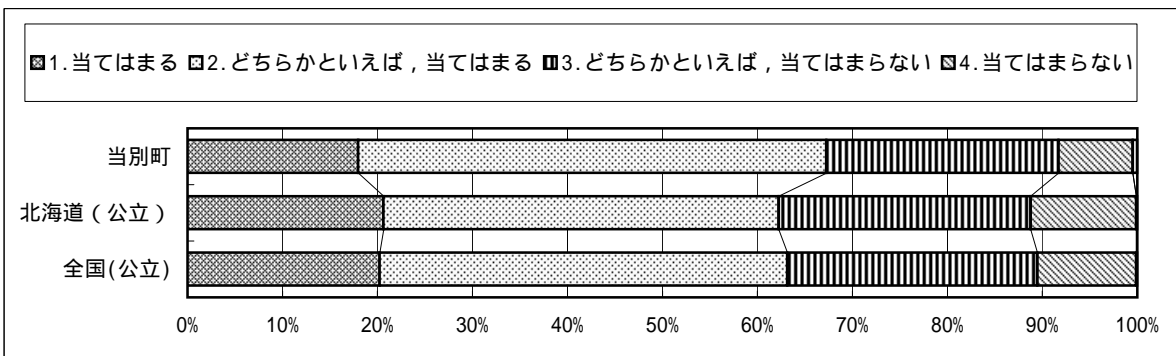
< 考 察 >

今年度当別町生徒の「学校で友達に会うのは楽しい」の割合は、ほぼ全国・全道と同程度であるが、「好きな授業がある」割合は、全国・全道よりも高い傾向がある。楽しい学校・分かる授業は、子どもの学習意欲を高めることとは切り離せない要因であるので、生徒を引きつける授業の工夫が大切である。

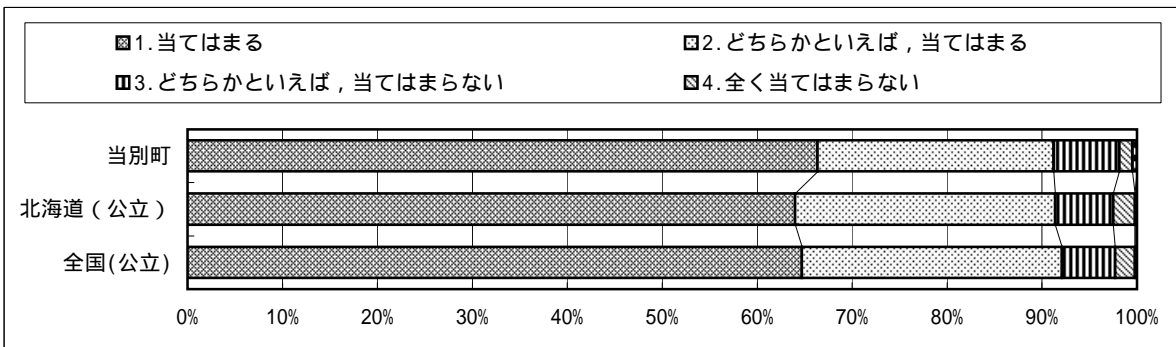
(4) 自尊意識・規範意識について

「自分には良いところがある」当別町生徒の割合は18%で、全国より2.6ポイント、全道より2.2ポイント低い。  
 「将来の夢や目標を持っている」当別町生徒の割合は48.8%で、全国より4.5ポイント全道より5.1ポイント高い。  
 「学校の規則を守っている」当別町生徒の割合は49.3%で、全国より4.2ポイント、全道より5.9ポイント高い。  
 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」当別町生徒の割合は59.4%で、全国より3.9ポイント、全道より2ポイント低い。  
 「人の役に立つ人間になりたいと思う」当別町生徒の割合は66.4%で、全国より1.7ポイント、全道より2.4ポイント高い。

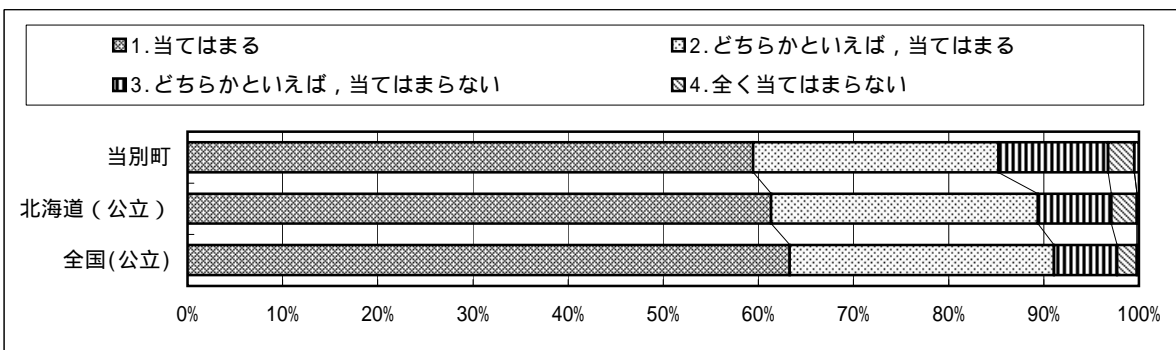
質問：自分には良いところがある



質問：人の役に立つ人間になりたい



質問：いじめは、どんな理由があってもいけない



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

学校の規則を守っている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。  
 いじめはいけないことだと思う生徒の方が、正答率が高い傾向にある。  
 将来の夢や目標を持っている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。  
 人の役に立ちたいと思っている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。

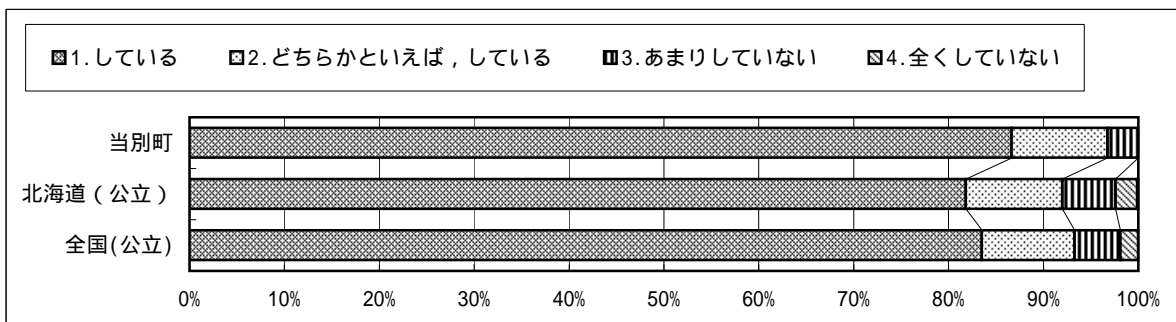
< 考 察 >

今年度当別町の生徒は、「将来の夢や目標を持っている」「学校の規則を守っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の割合は全国・全道を上回っているが、「自分には良いところがある」「いじめは、どんな理由があってもいけない」には課題が残る。したがって、キャリア教育や人権尊重の教育などを充実させ、生徒に目的意識・自尊心をしっかりと身に付けさせることが大切である。

( 5 ) 家族とのコミュニケーションについて

「普段、朝食を一緒に食べている」当別町生徒の割合は86.6%で、全国より3.1ポイント、全道より4.7ポイント高い。  
 「普段、夕食を一緒に食べている」当別町生徒の割合は61.3%で、全国より3.9ポイント、全道より1.1ポイント高い。  
 「家の手伝いをする」当別町生徒の割合は27.2%で、全国より6.6ポイント、全道より6.1ポイント高い。

質問：普段、朝食を一緒に食べている



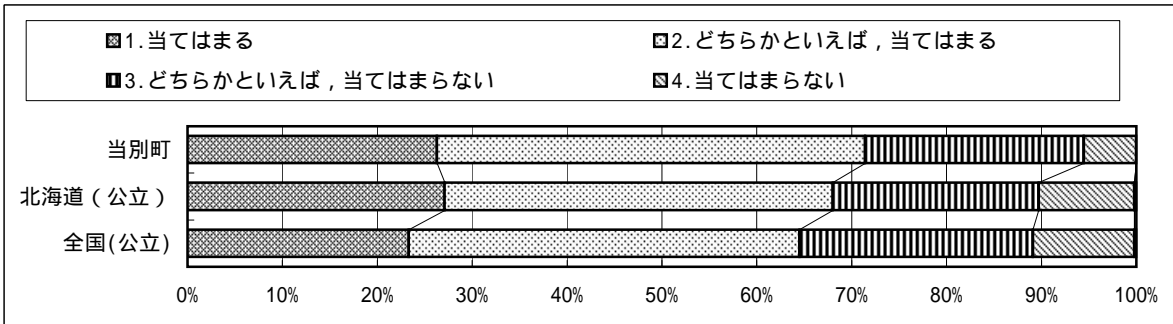
< 考 察 >

今年度の当別町生徒は、「家族と食事を一緒に取る」割合も「家の手伝いをする」割合も、全国・全道より高くなっている。精神的に不安定な思春期段階において、家族との関係や安定した家庭生活は、何よりも重大な要素である。したがって今後とも、円滑な家族間のコミュニケーションが図られることが大切である。

( 6 ) 社会に対する興味・関心について

「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」当別町生徒の割合は25.8%で、全国より2.3ポイント、全道より2.8ポイント高い。  
 「今住んでいる地域の行事に参加している」当別町生徒の割合は12.0%で、全国より0.6ポイント、全道より3.3ポイント高い。  
 「総合的な学習が好きな」当別町生徒の割合は26.3%で、全国より3.0ポイント高く、全道より0.8ポイント低い。

質問：総合的な学習の勉強は好き



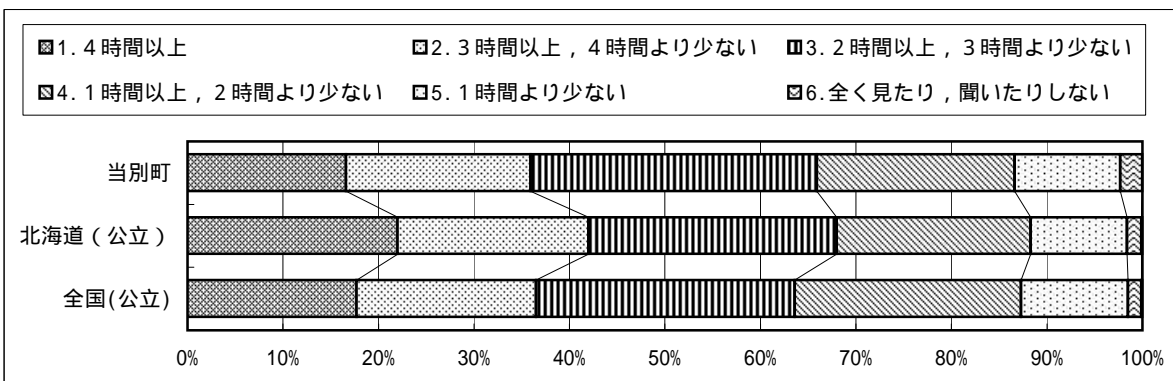
< 考 察 >

「新聞やテレビニュースへの関心」や「地域への関心」は今年度の当別町生徒は全国・全道よりも高い傾向にあり、総合的な学習（活用型・探求型学習）が好きな割合も高い。したがって今後さらに社会への興味・関心を高めることが大切である。

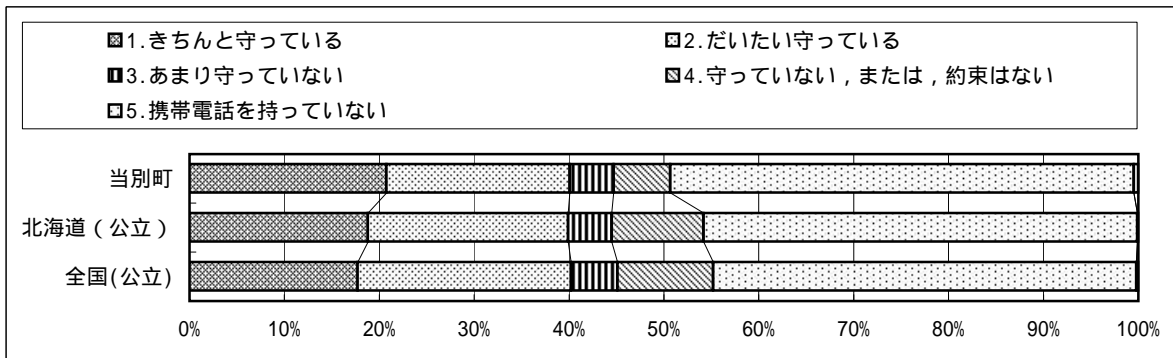
( 7 ) テレビ・ゲーム・インターネット、携帯電話について

「普段一日当たり2時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする」当別町生徒の割合は66.0%で、全国より2.4ポイント高く全道より2ポイント低い。  
 「普段一日当たり1時間以上テレビゲームをする」当別町生徒の割合は51.6%で、全国より10.4ポイント、全道より1ポイント高い。  
 「携帯電話の使い方について家の人と約束したことを守っている」当別町生徒の割合は20.7%で、全国より6.6ポイント、全道より1.9ポイント高い。

質問：普段一日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか



質問：携帯電話の使い方について家の人と約束したことを守っている



< 考 察 >

当別町生徒の「テレビゲームに関する状況」は、昨年に引き続き課題である。「テレビ・ビデオの視聴時間」は全国より若干長いが、昨年度よりは改善傾向にある。「携帯電話の使用」については、全国・全道より改善傾向にあり、各学校の取組が浸透してきている状況にある。

これら項目の改善は、学力向上・学びの習慣づくりと密接に関係しているので、これからも家庭・関係機関と継続した連携を図っていく必要がある。

### 3. 学校質問紙に関する調査結果

#### (1) 学習態度

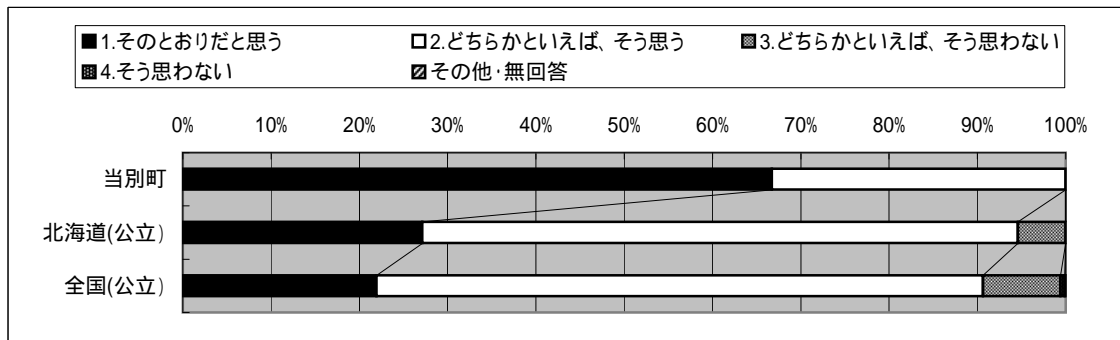
児童生徒が熱意を持って勉強していると思っている学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して7.8ポイント、全道と比較して5.5ポイント高い。

中学校調査においては66.6%で、全国と比較して17.8ポイント、全道と比較して19.2ポイント低い。

また、前年度と比較して、小学校は「その通りだと思う」が増え・中学校は「どちらかといえばそう思わない」が増えた。

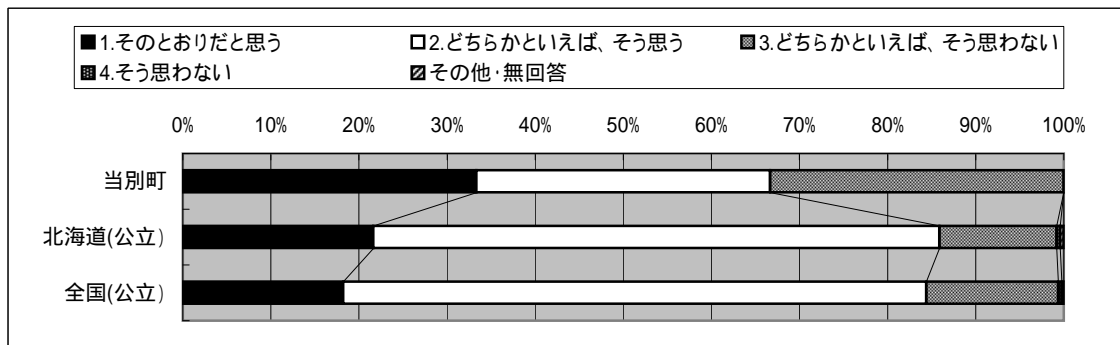
#### 小学校

質問番号	質問事項									
11	児童は、熱意を持って勉強していると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	27.1	67.4	5.4	0.0						0.0
全国(公立)	22.3	69.9	8.9	0.5						0.1



#### 中学校

質問番号	質問事項									
11	生徒は、熱意を持って勉強していると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	33.3	33.3	0.0						0.0
北海道(公立)	21.6	64.2	13.3	0.4						0.4
全国(公立)	18.2	66.2	15.0	0.4						0.2



#### 【考察】

小学校では、熱意を持って勉強していると思っている学校の割合は、全国・全道よりも高く、中学校では「どちらかといえばそう思わない」が増えた。今後も児童生徒が熱意をもって勉強に取り組むように、分かる授業の構築を一層図っていくことが望まれる。



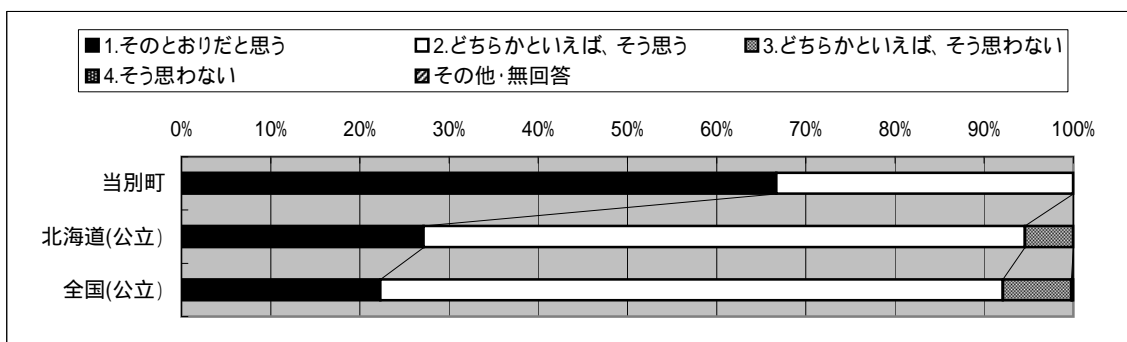
授業中に私語が少なく、落ち着いていると思っている学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して7.2ポイント、全道と比較して5.4ポイント高い。

中学校調査においても100.%で、全国と比較して9.6ポイント、全道と比較して5.6ポイント高い。

また、前年度と比較して、当別町の小・中学校は落ち着きが増し私語が少なくなっている。

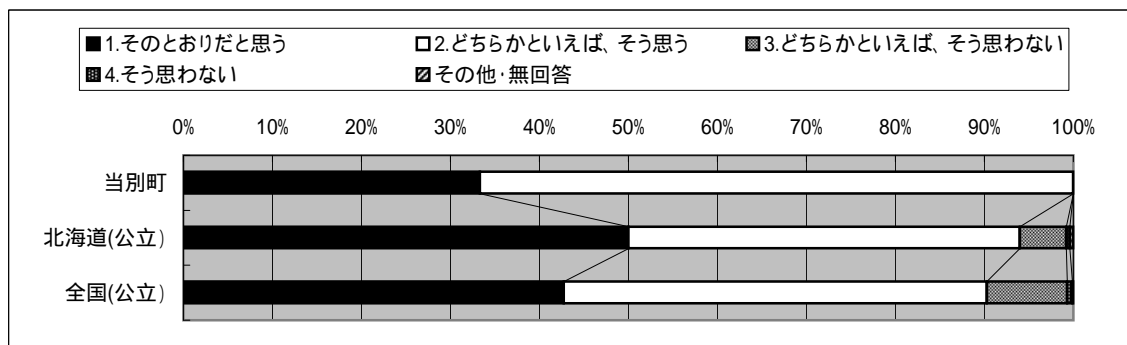
#### 小学校

質問番号	質問事項									
12	児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	27.1	67.4	5.4	0.0						0.0
全国(公立)	22.3	69.9	7.7	0.1						0.1



#### 中学校

質問番号	質問事項									
12	生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	50.0	44.0	5.2	0.4						0.4
全国(公立)	42.7	47.5	9.0	0.6						0.1



#### 【考察】

授業中に私語が少なく落ち着いて勉強していると思っている当別町の学校の割合は、全国・全道と比較して小・中学校とも増しており、「規律ある学習」は学力向上の基本になるもので今後とも規律ある授業実現に取り組むことが大切である。

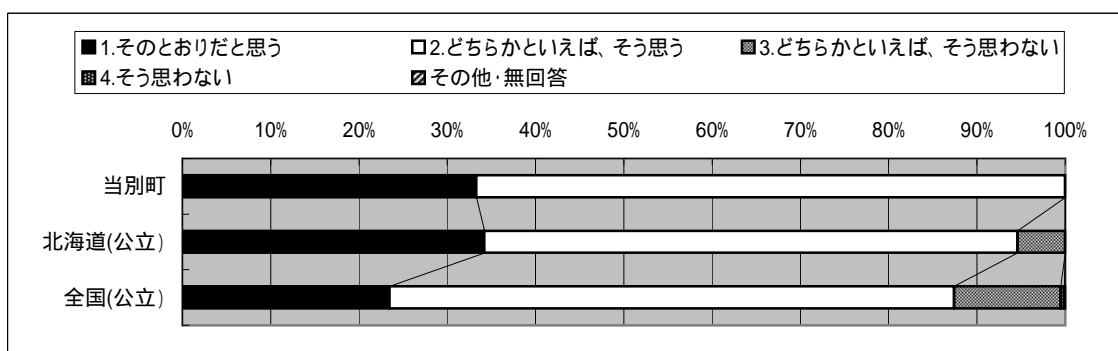
児童生徒が礼儀正しいと思っている学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して12.6ポイント、全道と比較して5.4ポイント高い。

中学校調査においても100.0%で、全国と比較して13.0ポイント、全道と比較して6.9ポイント高い。

また、前年度と比較して、当別町の中学校は「その通りだと思う」と「どちらかといえば・・・」が逆転している。

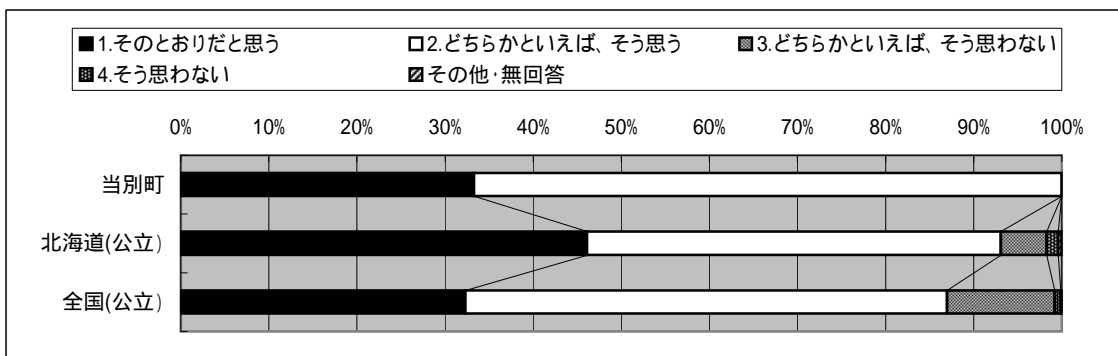
#### 小学校

質問番号	質問事項									
13	児童は、礼儀正しいと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	34.2	60.4	5.4	0.0						0.0
全国(公立)	23.5	64.0	12.1	0.4						0.1



#### 中学校

質問番号	質問事項									
13	生徒は、礼儀正しいと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	46.1	47.0	5.2	1.3						0.4
全国(公立)	32.3	54.7	12.2	0.7						0.1



#### 【考察】

児童生徒が礼儀正しいと思っている学校の割合は、小学校は昨年同様で、中学校は「その通り」と「どちらかといえば」が逆転している。

より良い人間関係づくりをつくる上で、「あいさつ」「言葉遣い」などは、大切なことであり、今後もあらゆる教育活動の場面で家庭と協力して意図的に指導することが大切である。

(2) 学力向上に向けた取組

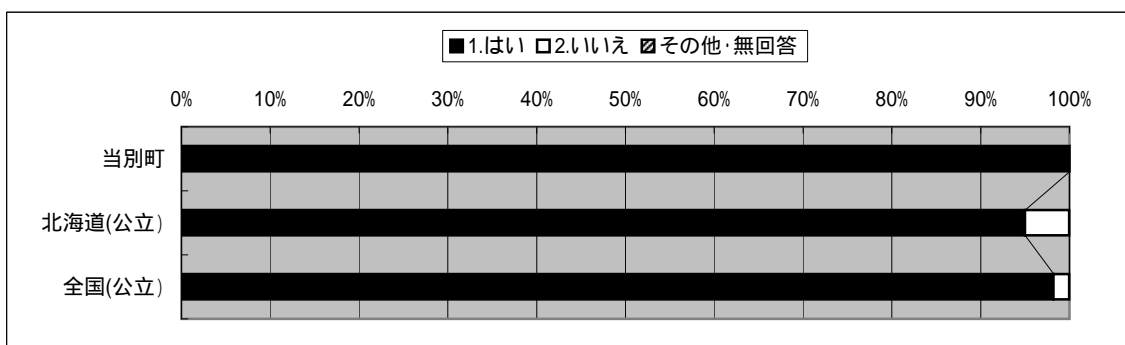
「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して1.8ポイント、全道と比較して5.0ポイント高い。

中学校調査においても今年度は100.0%で、全国と比較して8.0ポイント、全道と比較して17.2ポイント高い。

前年度との比較では、小学校で増減無し、中学校で33.3ポイント上がっている。

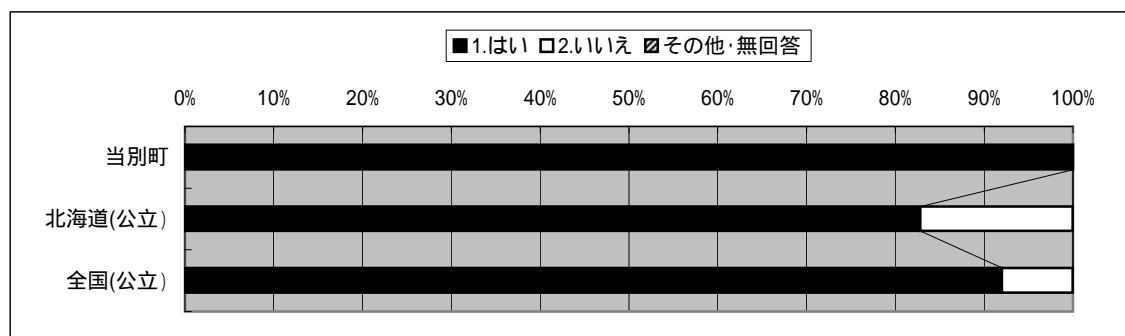
小学校

質問番号	質問事項									
22	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	100.0	0.0								0.0
北海道(公立)	95.0	5.0								0.0
全国(公立)	98.2	1.8								0.0



中学校

質問番号	質問事項									
22	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	100.0	0.0								0.0
北海道(公立)	82.8	17.2								0.0
全国(公立)	92.0	8.0								0.0



【考察】

小学校では、昨年に引き続き今年度も「一斉読書の時間」を設置して、読書週間の定着を進めている。中学校でも今年度は全部の学校が取り組むようになった。今後も社会教育・家庭教育との連携を継続して読書活動の充実を図ることが大切である。

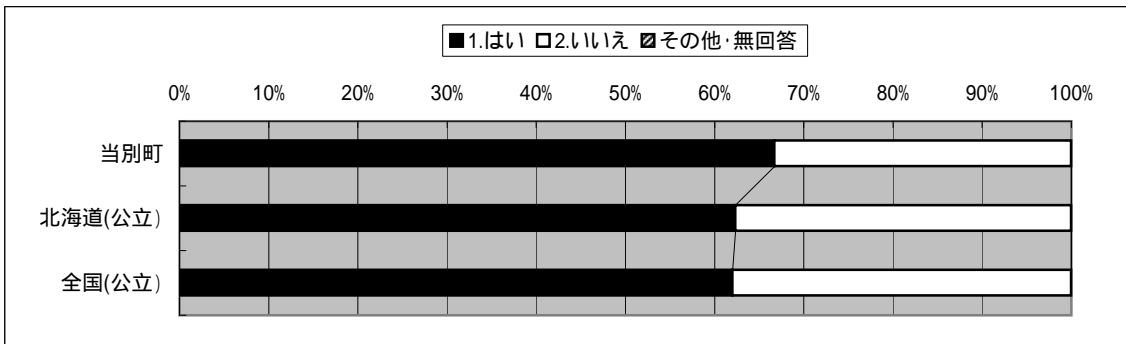
(3) 学習支援

放課後を利用した補足的な学習サポートを実施している学校の割合は、小学校調査においては66.7%で、全国と比較して4.7ポイント、全道と比較して4.4ポイント高い。

中学校調査においては100%で、全国と比較して14.5ポイント、全道と比較して19.5ポイント高い。

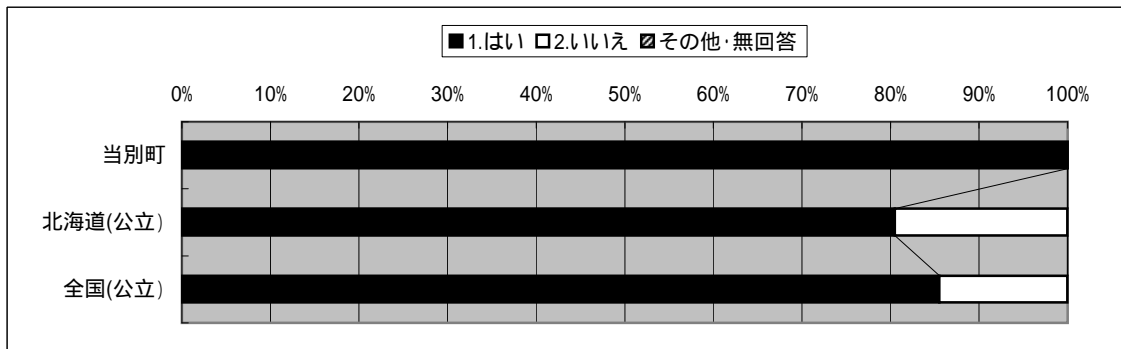
小学校

質問番号	質問事項									
24	放課後を利用した補足的な学習サポートを実施していますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3								0.0
北海道(公立)	62.3	37.7								0.0
全国(公立)	62.0	38.0								0.0



中学校

質問番号	質問事項									
24	放課後を利用した補足的な学習サポートを実施していますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	100.0	0.0								0.0
北海道(公立)	80.5	19.5								0.0
全国(公立)	85.5	14.5								0.0



【考察】

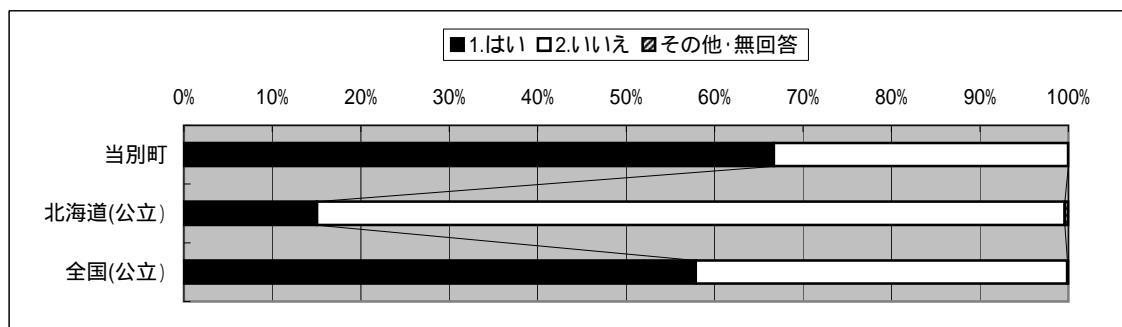
当別町は小学校で33.7ポイント昨年度より減らしているが、中学校においては、全ての学校で放課後を利用した補足的な学習に取り組んでいる。いろいろな場面を活用して子どもに学びの習慣をつけさせることが重要であり、基礎基本を定着させ、今後とも一層、学力向上を図っていくことが大切である。

長期休業期間を利用した補足的なサポートを実施している学校の割合は、小学校調査においては66.7%で、全国と比較して9.8ポイント、全道と比較して50.9ポイント高い。

中学校調査においても当別町は100.0%実施で、全国と比較して19.8ポイント、全道と比較して46.1ポイント高い。

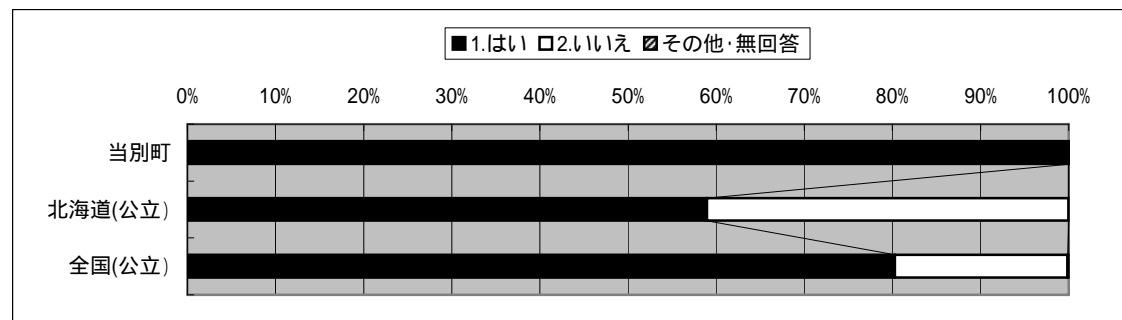
#### 小学校

質問番号	質問事項									
26	長期休業期間を利用した補足的な学習サポートを実施していますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3								0.0
北海道(公立)	15.8	88.7								0.4
全国(公立)	56.9	41.3								0.1



#### 中学校

質問番号	質問事項									
26	長期休業期間を利用した補足的な学習サポートを実施していますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	100.0	0.0								0.0
北海道(公立)	53.9	37.5								0.0
全国(公立)	80.2	19.6								0.1



#### 【考察】

長期休業を利用した補足的な学習に取り組んでいる学校は、当別町は小・中学校とも昨年同様の割合である。「学ぶ習慣づくり」は学力向上には欠くことが出来ない要素であり、今後もさらに工夫することが大切である。

(4) 国語科、算数・数学科の指導法

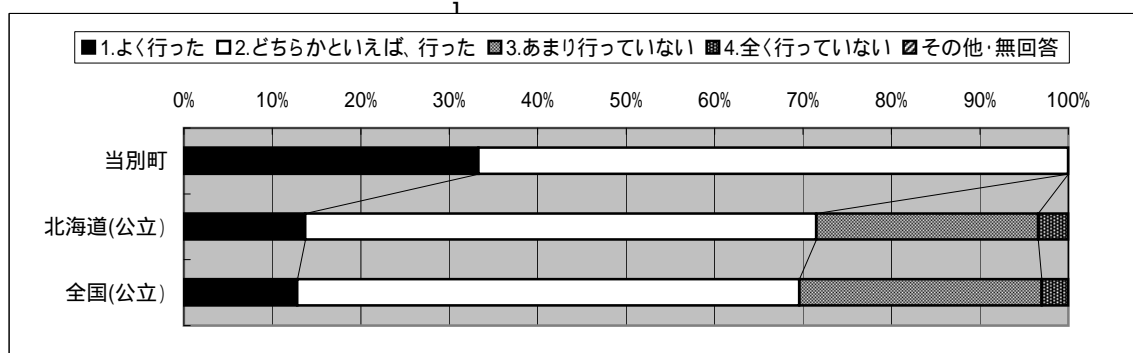
国語の指導として、補足的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して30.4ポイント、全道と比較して28.5ポイント高い。

中学校調査においても100.0%で、全国と比較して25.4ポイント、全道と比較して27.5ポイント高い。

また、前年度と比較して、小学校・中学校とも実施率が高くなっている。

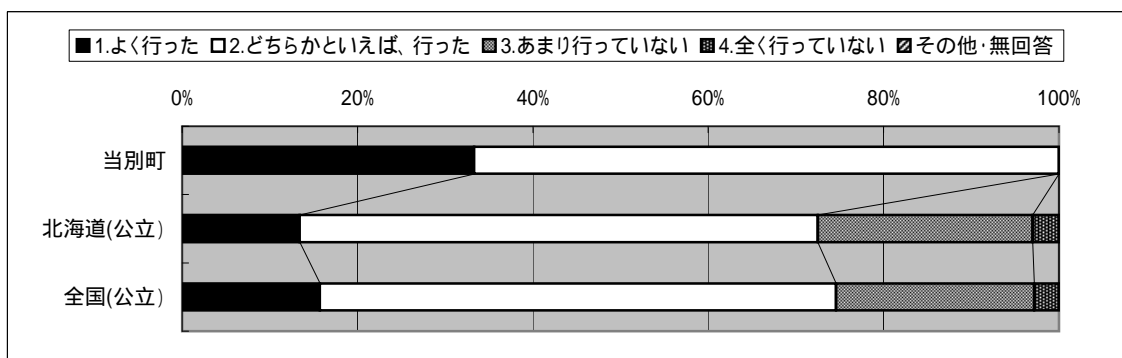
小学校

質問番号	質問事項									
56	国語の指導として、補足的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	13.7	57.8	25.1	3.4						0.0
全国(公立)	12.8	56.8	27.4	3.0						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
56	国語の指導として、補足的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	13.4	59.1	24.5	3.0						0.0
全国(公立)	15.7	58.9	22.6	2.8						0.0



【考察】

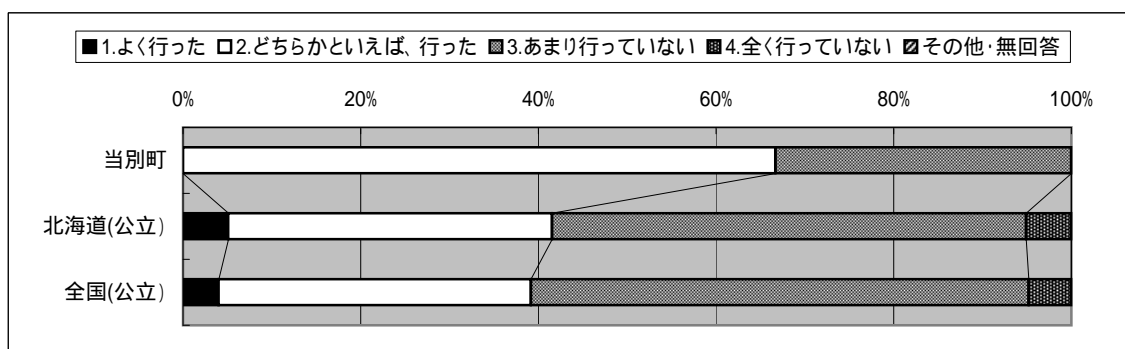
小学校・中学校とも当別町は、国語の補足的な指導は全国・全道と比較して高い傾向にあり、今後とも継続した取り組みが大切である。

国語の指導として、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査においては66.7%で、全国と比較して27.6ポイント全道と比較して24.5ポイント高い。

中学校調査においては100.0%で、全国と比較して47.7ポイント、全道より49.1ポイント高い。

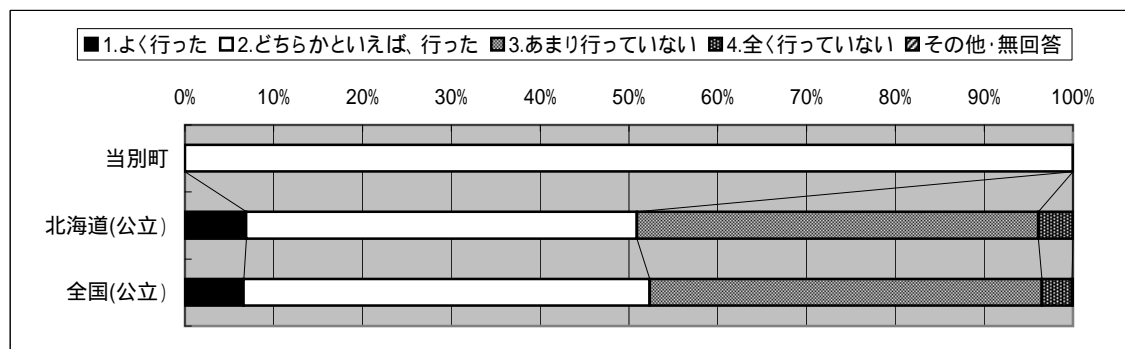
### 小学校

質問番号	質問事項									
57	国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	66.7	33.3	0.0						0.0
北海道(公立)	5.0	36.0	52.7	5.0						0.0
全国(公立)	4.0	35.2	56.1	4.8						0.0



### 中学校

質問番号	質問事項									
57	国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	100.0	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	6.9	44.0	45.2	3.9						0.0
全国(公立)	6.6	45.8	44.2	3.4						0.1



### 【考察】

国語の発展的な指導を行っている当別町の小中学校の割合は、全国・全道よりも高い傾向にある。今後とも言語活動の指導に力を入れて、発展的な指導に積極的に取り組むことが大切である。

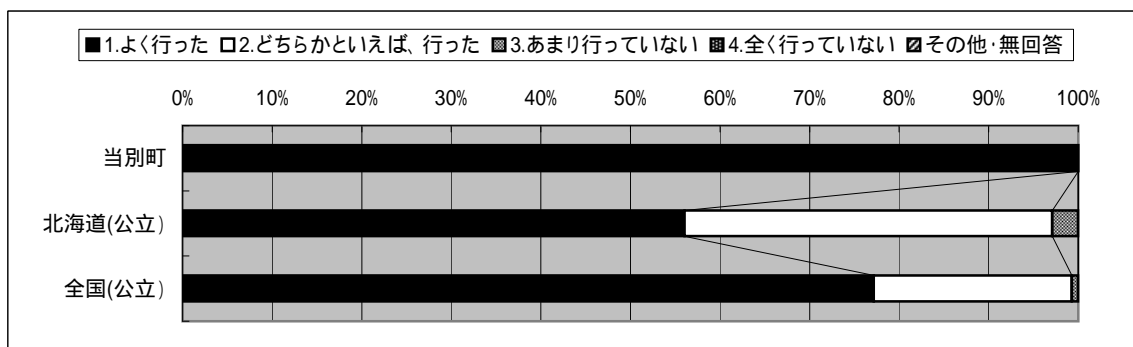
国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)をよく与えた学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して0.7ポイント高く、全道と比較して2.9ポイント高い。

中学校調査においては66.7.%で、全国と比較して22.1ポイント、全道と比較して12.6ポイント低い。

また、前年度と比較して、中学校は同数だが、小学校で33.3ポイント高くなった。

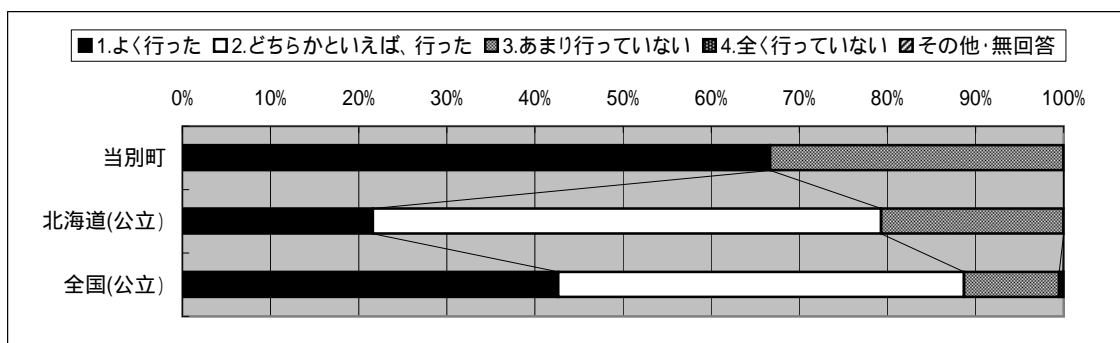
#### 小学校

質問番号	質問事項									
73	国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	100.0	0.0	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	56.0	41.0	2.9	0.0						0.0
全国(公立)	77.1	22.1	0.7	0.0						0.0



#### 中学校

質問番号	質問事項									
72	国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	0.0	33.3	0.0						0.0
北海道(公立)	21.6	57.7	20.7	0.0						0.0
全国(公立)	42.7	46.1	10.8	0.4						0.1



#### 【考察】

子どもに学ぶ習慣を身に付けさせることは現在の最大教育課題であり、最も効果的である。したがって学校が子どもに宿題を出して家庭学習に取り組ませることに意識して取り組むことが必要である。

次時の授業につながる宿題や子どもの学習意欲を高める取り組みなど今後とも一層の工夫が大切である。



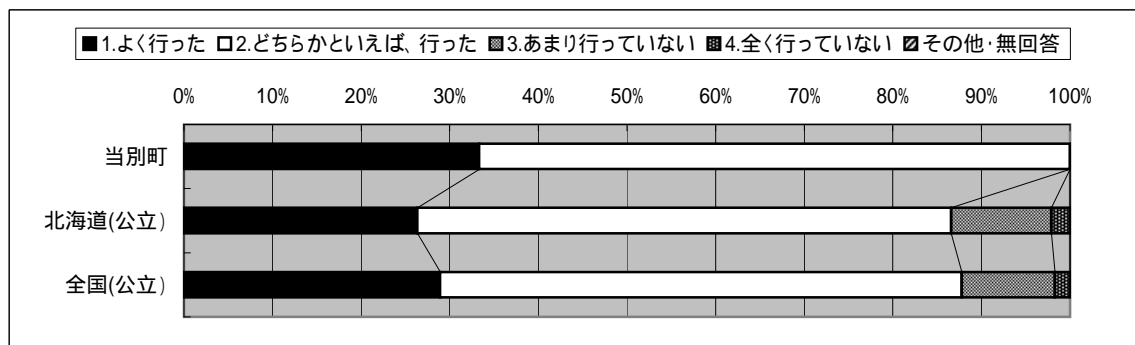
算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して12.2ポイント、全道と比較して13.4ポイント高い。

中学校調査においても100.0%で、全国と比較して13.3ポイント、全道と比較して11.3ポイント高い。

また、前年度と比較して、小学校も中学校も同数だが、中学校で「よく行った」の割合が高くなっている。

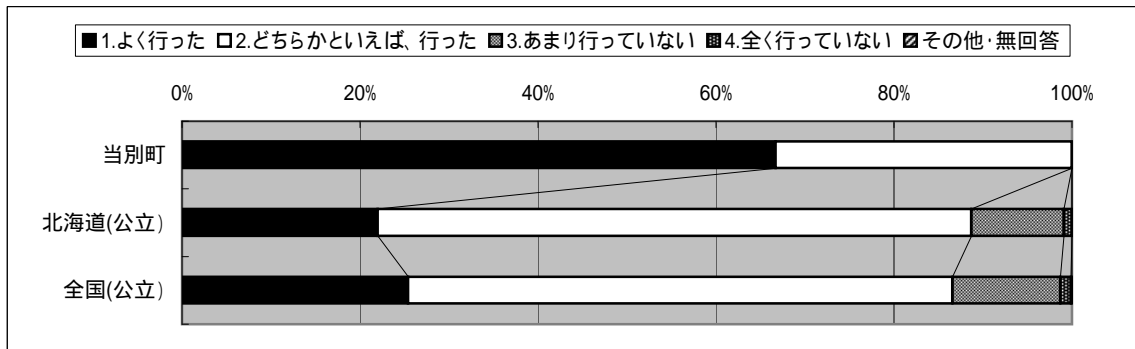
#### 小学校

質問番号	質問事項									
62	算数の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	26.3	60.2	11.3	2.1						0.0
全国(公立)	28.9	58.9	10.5	1.7						0.0



#### 中学校

質問番号	質問事項									
62	数学の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	22.0	66.8	10.4	0.9						0.0
全国(公立)	25.4	61.2	12.1	1.2						0.1



#### 【考察】

小学校においても中学校においても、算数・数学の補充的な指導を行っている割合は100%で、全国・全道よりも高い。今後も系統的に基礎学力を高めるために継続して、中身を工夫した補充的な指導が大切である。

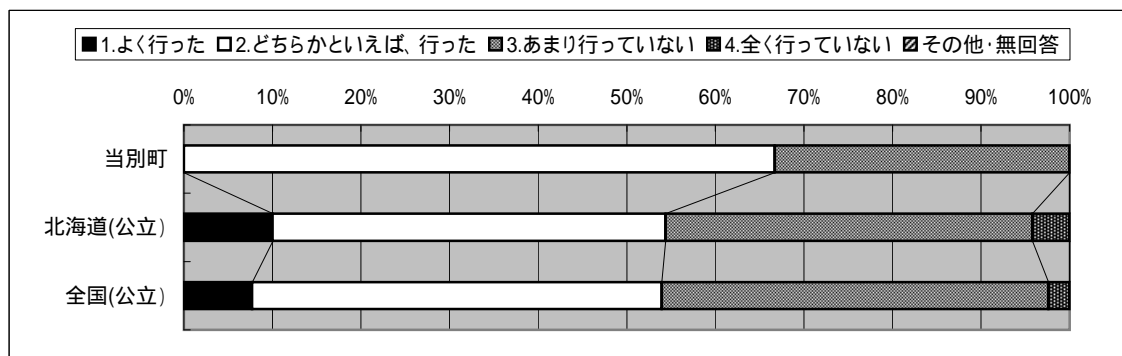
算数・数学の指導として、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査においては66.7%で、全国と比較して12.7ポイント、全道と比較して12.3ポイント高い。

中学校調査においても66.7%で、全国と比較して9.8ポイント、全道と比較して8.5ポイント高い。

また前年度と比較して、小中学校とも同数であったが、中学校で「よく行った」の割合が上がっている。

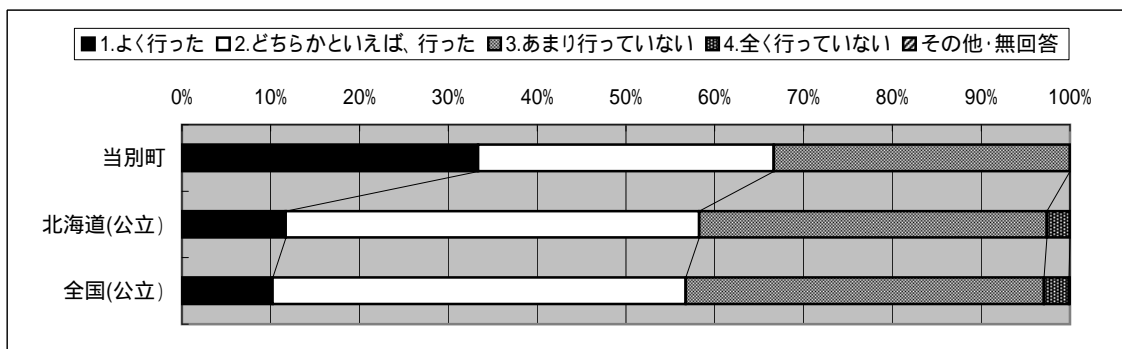
### 小学校

質問番号	質問事項									
63	算数の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	66.7	33.3	0.0						0.0
北海道(公立)	10.0	44.4	41.4	4.2						0.0
全国(公立)	7.7	46.2	43.6	2.4						0.0



### 中学校

質問番号	質問事項									
63	数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	33.3	33.3	0.0						0.0
北海道(公立)	11.7	46.6	39.2	2.6						0.0
全国(公立)	10.2	46.5	40.3	2.8						0.1



### 【考察】

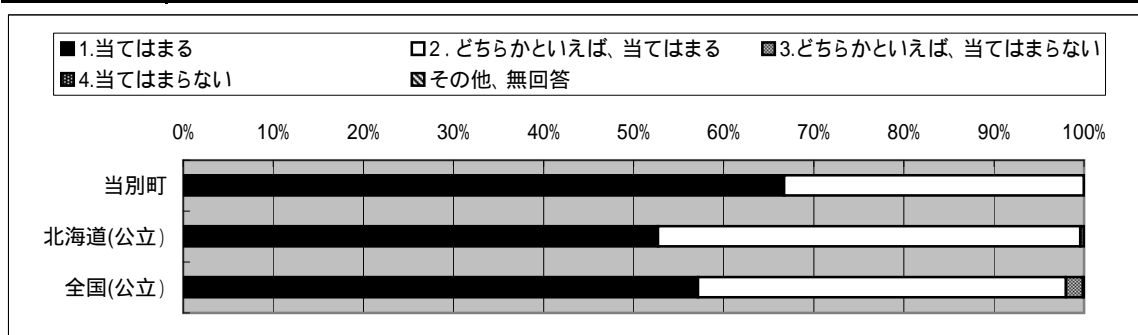
昨年度から比べ、当別町の小中学校において発展的な指導を行う割合は同数である。今後は、子どもの実態分析・把握等を行い、一層指導の高まりを図っていく必要がある。

算数・数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して2ポイント、全道と比較して0.4ポイント高い。

中学校調査においても100.0%で、全国と比較して5.1ポイント、全道と比較して4.3ポイント高い。

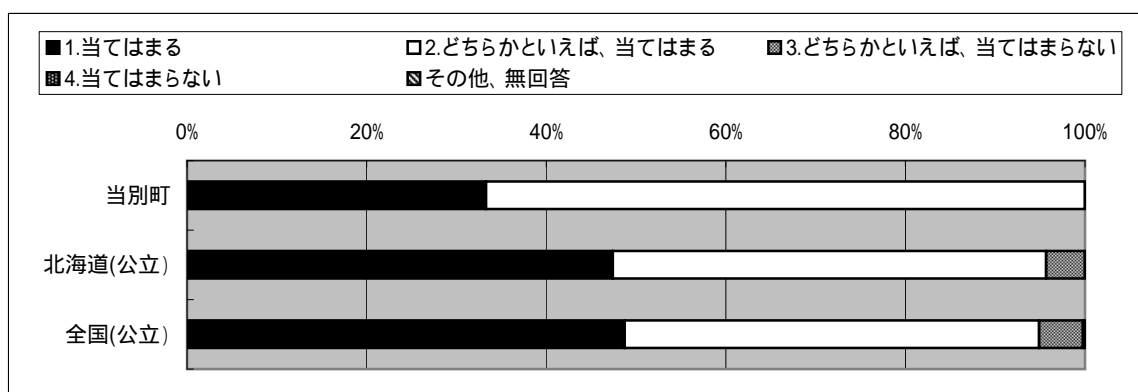
小学校

質問番号	質問事項									
65	算数の指導として、計算問題など反復練習をする授業を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	52.7	46.9	0.4	0.0						0.0
全国(公立)	57.2	40.9	1.9	0.1						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
65	数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	47.4	48.3	4.3	0.0						0.0
全国(公立)	48.7	46.1	4.9	0.2						0.1



【考察】

小学校・中学校の算数・数学の指導として、計算問題などを繰り返し練習して基礎計算力を高めることは、子どもの持続力・集中力を高め、数学的な思考力を養う元になる極めて重要な取り組みである。したがって今後とも継続し、内容の工夫を図っていくことが必要である。

( 5 ) 地域の人材の活用

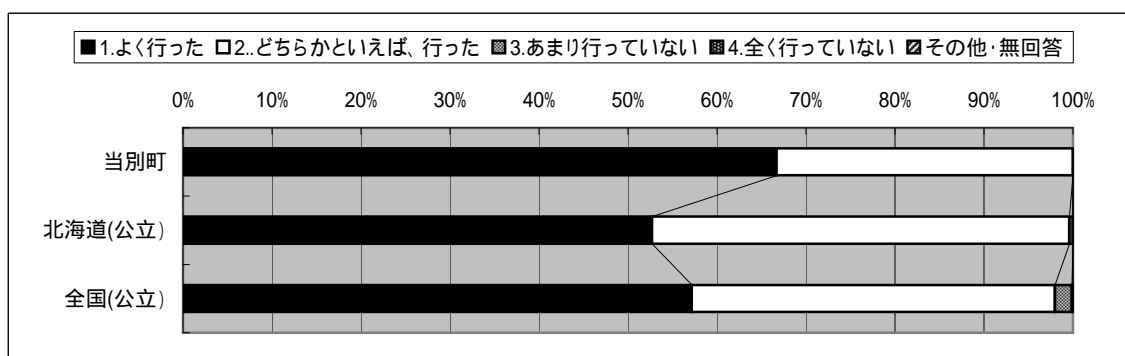
地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して2.0ポイント、全道と比較して0.4ポイント高い。

中学校調査においても100.0%で、全国と比較して48.9ポイント、全道と比較して46.2ポイント高い。

また、前年度と比較して、小中学校とも100.0ポイントで変わらない。

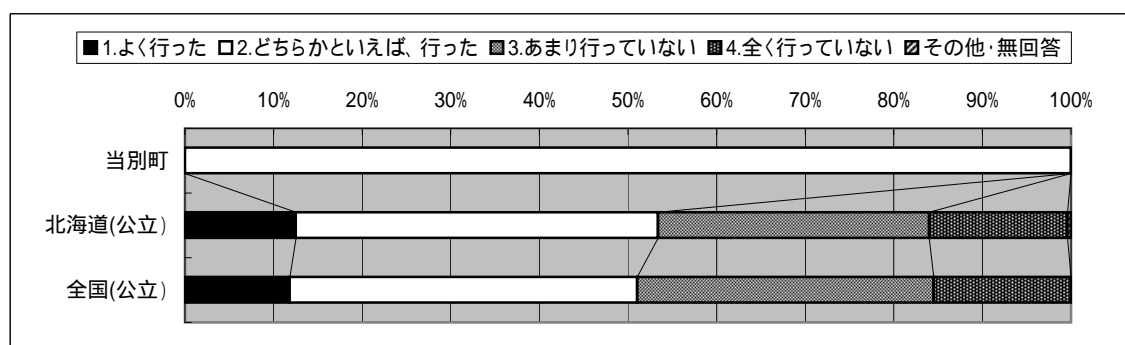
小学校

質問番号	質問事項									
67	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	52.7	46.9	0.4	0.0						0.0
全国(公立)	57.2	40.9	1.9	0.1						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
66	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	100.0	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	12.5	40.9	30.6	15.6						0.4
全国(公立)	11.8	39.2	33.4	15.5						0.0



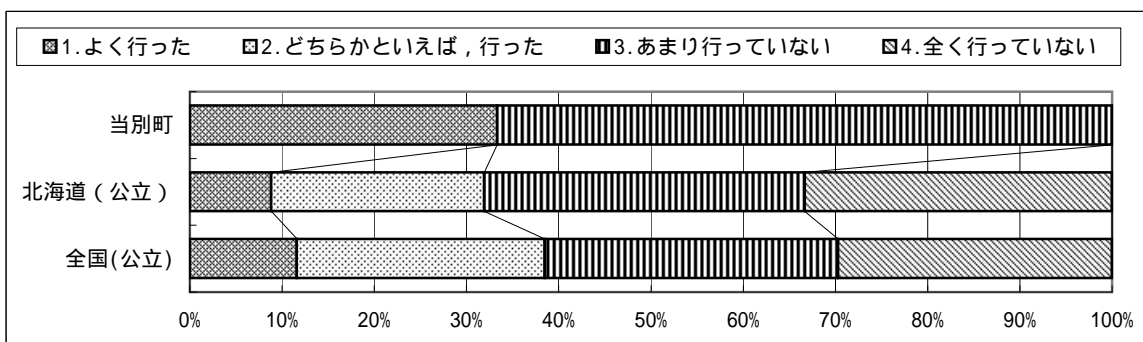
【考察】

当別町の小・中学校において、地域の人材を活用した授業を行っている割合は、当別町は全国・全道より高く定着している状態といえる。したがって今後も幅広く地域の人材などを活用して、教科の指導だけでなく食育の指導や職場体験学習・総合的な学習の時間、部活動での活用など、範囲を広げていくことが大切である。

ボランティア等による授業サポート(補助)を行った学校の割合は、小学校調査においては33.3%で、全国と比較して5.2ポイント低く、全道と比較して1.4ポイント高い。  
 中学校調査においては0%で、全国と比較して18.8ポイント、全道と比較して17.7ポイント低い。

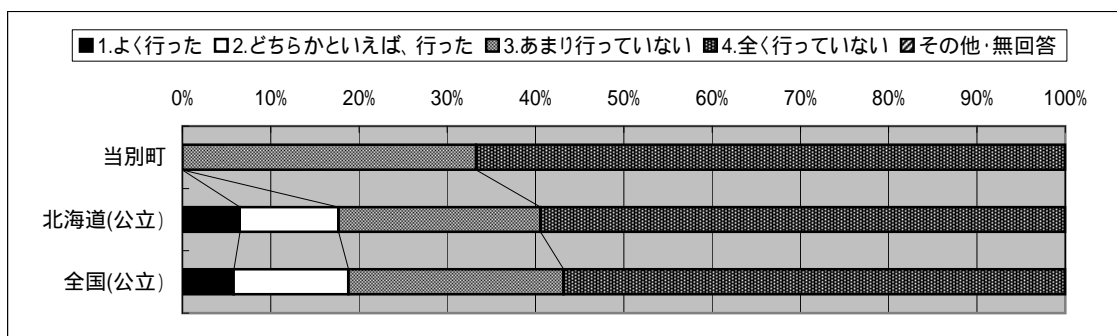
小学校

質問番号	質問事項									
68	ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	0.0	66.7	0.0						0.0
北海道(公立)	8.8	23.1	34.7	33.3						0.0
全国(公立)	11.6	26.9	31.3	29.7						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
67	ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	0.0	33.3	66.7						0.0
北海道(公立)	6.5	11.2	22.9	59.5						0.0
全国(公立)	5.8	13.0	24.4	56.8						0.0



【考察】

当別町の小学校においては、昨年とそれほど相違はないが、中学校で活用率が低い状況である。学校支援地域本部事業の取り組みなど中学校で一層の取組が望まれる。

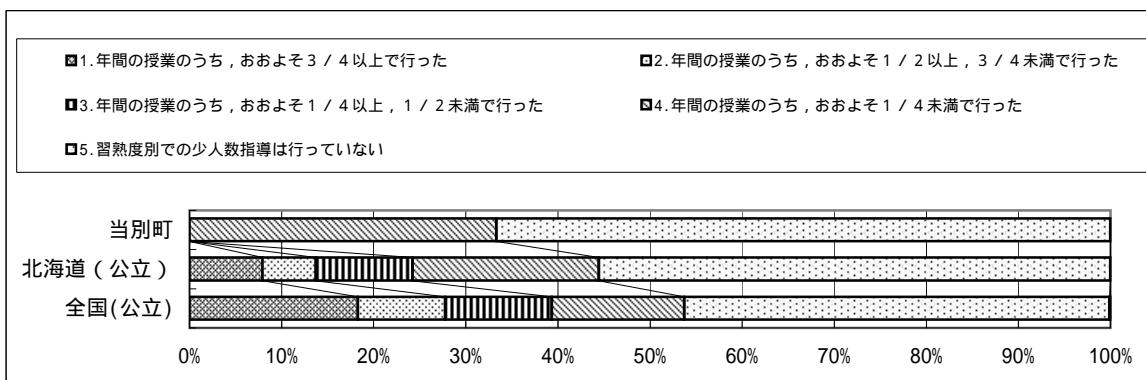
(6) 習熟度別少人数指導

算数・数学の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行っている学校の割合は、小学校調査においては0ポイントで、全国より27.8ポイント、全道と比較して13.7ポイント低い。

中学校調査においても0ポイントで、全国と比較して26.2ポイント、全道と比較して12.1ポイント低い。

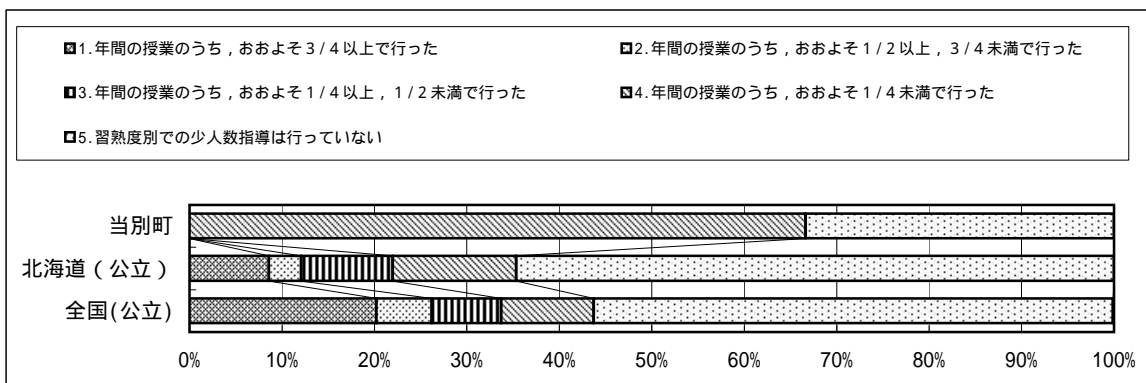
小学校

質問番号	質問事項									
50	前年度の算数の授業において習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7					0.0
北海道(公立)	7.9	5.8	10.5	20.2	55.5					0.0
全国(公立)	18.3	9.5	11.6	14.4	46.2					0.1



中学校

質問番号	質問事項									
50	前年度の数学の指導として習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3					0.0
北海道(公立)	8.6	3.5	9.9	13.4	64.7					0.0
全国(公立)	20.2	6.0	7.5	10.0	56.1					0.1



【考察】

当別町の小中学校において少人数指導を行う割合は極めて低い状態である。算数・数学指導で、子どもの理解のやさや定着の実態に応じて、きめ細かな指導を進めることは大変有効な指導方法であり、指導体制の工夫を図ることが大切である。

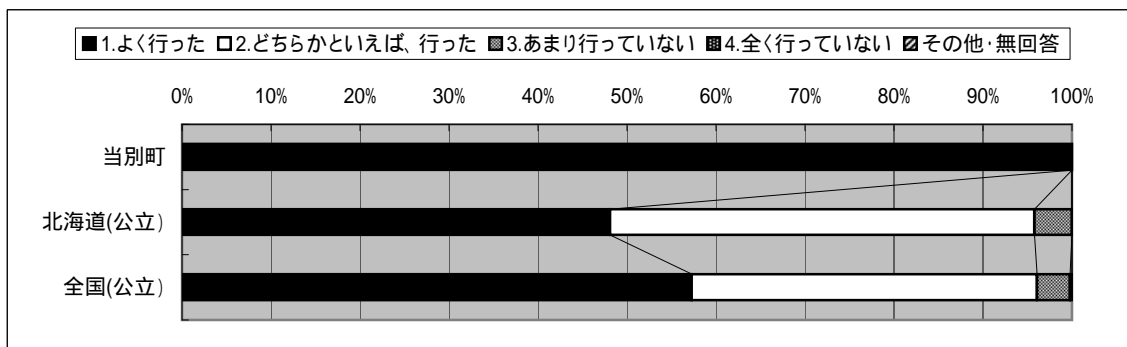
算数・数学の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、指導・評価を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して3.9ポイント、全道と比較して4.2ポイント高い。

中学校調査においても100.0%で、全国と比較して5.7ポイント、全道と比較して9.9ポイント高い。

また、前年度と比較して、小学校・中学校とも100%で増減無しであるが、小学校で「よく行った」の割合が高くなっている。

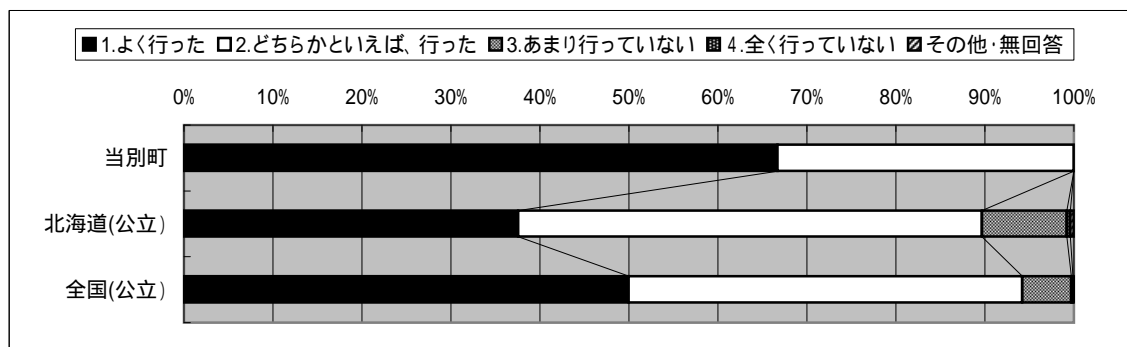
小学校

質問番号	質問事項									
80	算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、指導・評価を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	100.0	0.0	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	48.1	47.7	4.2	0.0						0.0
全国(公立)	57.2	38.8	3.7	0.2						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
79	数学の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、指導・評価を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	37.5	52.1	9.5	0.4						0.4
全国(公立)	49.9	44.2	5.5	0.2						0.1



【考察】

当別町の小学校・中学校とも、算数・数学の家庭学習の課題について、指導評価を行った割合は100%で、全国・全道よりも高い状態である。  
家庭学習の習慣化を図るには、課題を出すだけでなく、子どもの努力の様子をしっかりと評価し励ますことが大切であり、今後とも子どもの意欲を高める指導の工夫が大切である。